

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Uchida, N Sakai, T	2002	Analysis of peculiar volcanic earthquakes at Satsuma-Iojima volcano	Earth, Planet. Space	54	197-209		1(1)			
国土地理院 GEONETグループ	2004	GPS連続観測システム"GEONET"とその展望	測地学会誌	50-2	53-65		1(1)			
畑中雄樹	2006	地球センサーとしてのGPS連続観測網の高度化 -GPS観測量に含まれるシグナルとノイズの分離 -	測地学会誌	52-1	1-19		1(1)			国土地理院におけるGPS連続観測網は1990年代前半から始まり、現在は1200点規模に達している。このような巨大なシステム全体の精度は観測点の形状、設置の適切さ多岐にわたるノウハウの蓄積を背景に達成されており、また心臓部である計算手法も度重なる改良を経て、安定性と精度は世界屈指のものとなっている。火山噴火予知への計り知れない貢献をなしているGEONETの技術的背景が詳細に記述されている。
村上亮	2003	村上 亮 (2005) 最近10年の地殻変動観測の進歩と火山学への貢献	火山	第50巻特別号	S27-S48		1(1)	2(2)	3(3)	
村上亮	2003	新しい地殻変動観測技術の噴火予知の適用 - 新技術による実績と明らかになった課題 -	火山	48	161-167		1(1)	2(2)	3(3)	
山里平	2005	近代火山観測の歴史 - 気象庁の監視観測を中心に -	火山	50	S7-S18		1(1)			
Shoichi Oshima, Minoru Tozawa	2005	Submarine Volcanoes and Autonomous Survey Vehicles	Hydro INTERNATIONAL	9	54-57		1(1)			海底火山の火口周辺を調査する場合に噴火による危険を伴うことから無人による調査船を用いて、地形調査や採水などのデータを取得する。過去や最近の活動時における調査内容を結果を交えて報告。
小野寺健英, 加藤剛, 瀬尾徳常	2003	重力・地磁気異常から推定される福徳岡ノ場付近の地殻構造	海洋情報部研究報告	39	23-33		1(1)			火山活動の予測の基礎となるデータの整備等を目的とする「海域火山基礎情報図」作成等のため、福徳岡ノ場周辺の重力、地磁気に関する調査及び解析結果について報告。ブーゲー重力異常は福徳岡ノ場周辺が低重力異常域であり、重力基盤深度分布は、福徳岡ノ場の北約2kmを中心とする半径約5kmの範囲がすり鉢状の形態を示す。また、磁化強度分布によれば、基盤の低磁化強度域が福徳岡ノ場からその北西域にかけて存在している。
気象庁	2002	地震・火山月報(カタログ編) 平成14年1月～平成14年12月					1(1)			
気象庁	2003	地震・火山月報(カタログ編) 平成15年1月～平成15年12月					1(1)			
気象庁	2004	地震・火山月報(カタログ編) 平成16年1月～平成16年12月					1(1)			
気象庁	2005	地震・火山月報(カタログ編) 平成17年1月～平成17年12月					1(1)			CD-ROM
気象庁	2006	地震・火山月報(カタログ編) 平成18年1月～					1(1)			CD-ROM
畑中雄樹、山際敦史、湯通堂亨、宮原伐折羅	2005	GEONETのルーチン解の精度評価	国土地理院時報	108	49-56		1(1)			
矢萩智裕、湯通堂亨、小島秀基、畑中雄樹	2005	GEONETにおける緊急解析の現状	国土地理院時報	108	29-37		1(1)			
湯通堂亨岩田昭雄、雨貝知美、小島秀基、矢萩智裕、宮原伐折羅、畑中雄樹	2005	電子基準点の高さについて	国土地理院時報	106	21-30		1(1)			
西澤あずさ・小野智三・笹原昇・橋口博・大谷康夫	2003	マリアナ弧北端部の南日吉海山周辺における海底地震観測	海洋情報部研究報告	39	3-21		1(1)			南日吉海山において、海底地震計による人工震源を用いた上部地殻構造探査、自然地震観測の震源分布等の解析結果についての報告。
茂木 透, 橋本武志	2005	有珠山山頂カルデラ西部での電気探査-2000年有珠山噴火に伴ってカルデラ内に出来た断層群周辺の地下構造-	北海道大学地球物理学報告	68	233-241		1(1)			
Fujita, E., M. Ukawa, E. Yamamoto and Y. Okada	2002	Cyclic jerky opening of magma sheet and caldera formation during the 2000 Miyakejima volcano eruption	Geophys. Res. Letters	29	10.1029/2001GL013848		1(2)	2(2)	2(1)	2000年三宅島噴火活動でカルデラ形成期に繰り返し発生した傾斜ステップ現象について、島内で観測された傾斜計と広帯域地震計上下動成分を解析し、変動源が三宅島直下6～8kmの深さに位置するシル状のマグマ溜まりの開口で説明できることを示した。
H. Ueda, T. Matsumoto, E. Fujita, M. Ukawa, E. Yamamoto, Y. Sasai, M. Irwan and F. Kimata	2006	Geomagnetic changes associated with the dike intrusion during the 2000 Miyakejima eruptive activity, Japan	Earth and Planetary Science Letters	245	416-426		1(2)	2(2)	2(1)	2000年三宅島噴火の活動初期に貫入した岩脈の直下に位置していた観測点の磁力計で観測された地磁気変化を中心に分析し、岩脈の詳細な貫入形態を解明した。
Hase, H., T. Hashimoto, S. Sakanaka, W. Kanda and Y. Tanaka	2005	Hydrothermal system beneath Aso volcano as inferred from self-potential mapping and resistivity structure	J. Volcanol. Geotherm. Res.	143	259-277		1(2)	2(2)		
Hernandez P.A., Notsu K., Tsurumi M., Mori T., Ohno M., Shimoike Y., Salazar J.M. and Perez N.M.	2003	Carbon dioxide emissions from soils at Hakkoda, North Japan,	J. Geophys. Res.	108	2210		1(2)			
Jousset, P., H. Mori and H. Okada	2003	Elastic models for the magma intrusion associated with the 2000 eruption of Usu Volcano, Hokkaido, Japan., J.Volcal. Geotherm, Res., 125, 81-106, 2003.	J. V. G. R.	125	81-106		1(2)	2(5)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Kagiya T., S.Tanaka and H.Oshima	2003	Joint volcanological experiment on Volcanic structure and Magma supply System, Report on volcanic Activities and Volcanological Studies in Japan for the period from 1999 to 2002	火山	48	22-31		1(2)			
Nakamichi, H., M. Ukawa and S. Sakai	2005	Precise hypocenter locations of midcrustal low-frequency earthquakes beneath Mt. Fuji, Japan	Earth Planets and Space	56	e37-e40		1(2)			
Ohminato, T., M. Takeo, H. Kumagai, Y. Yamashina, J. Oikawa, E. Koyama, H. Tsuji and T. Urabe	2006	Vulcanian eruptions with dominant single force components observed at Asama volcano, Japan	Earth Planets and Space		in press		1(2)	2(2)	2(1)	
Sato M., Mori T., Shimoike Y., Nagao K. and Notsu K.	2002	Carbon isotope systematics of CO ₂ , CO and CH ₄ in fumarolic gases from Satsuma-Iwojima volcanic island, Japan.	Earth Planet Space	54	257-263		1(2)			
Satoshi Fujiwara, Mikio Tobita, Hiroshi P. Sato, Shinzaburo Ozawa, Hiroshi Une, Mamoru Koarai, Hiroyuki Nakai, Midori Fujiwara, Hiroshi Yurai, Takuya Nishimura, and Fumi Hayashi	2006	Satellite Data Give Snapshot of the 2005 Pakistan Earthquake	EOS	87	73,77		1(2)	3(3)		
Ukawa, M.	2005	Deep low-frequency earthquake swarm in the mid crust beneath Mount Fuji (Japan) in 2000 and 2001	Bulletin of volcanology	68	47-56		1(2)			2000年から2001年にかけて活化した富士山の低周波地震について、活動度変化を1980年から2003年まで示した。また活化した時期の震源は、過去の活動域の範囲内であることや同時期に山体直下の構造的地震の活発化も見られたこと等も明らかにした。
Ukawa, M., Fujita, E., Ueda, H, Kumagai, T., Nakajima, H. and Morita, H	2006	Long-term geodetic measurements of large scale deformation at Iwo-jima caldera, Japan	Journal of Volcanology and Geothermal Research	150	98-118		1(2)	2(2)		大規模変動が継続している硫黄島の地殻変動を1976年以降、ほぼ隔年で行われた測量データをもとに分析し、主に二つの変動様式に分けることができることを示した。それらは、カルデラの中心浅部に変動源のある定期的な収縮変動と間欠的に発生する大規模な隆起変動である。
鶴川元雄・藤田英輔・熊谷貞治	2002	遠地地震により遠隔誘発された硫黄島火山の微小地震活動	地学雑誌	111	277-286		1(2)	2(2)		
藤原智、仲井博之、板橋昭房、飛田幹男、矢来博司	2005	JERS-1干渉SARによる小空間スケール地表変位の検出	測地学会誌	51	199-213		1(2)	3(3)		
松村正一、畑中雄樹、雨宮秀雄、都筑三千男、菅富美男、呉新華	2004	電子基準点を利用した仮想基準点方式によるRTK-GPS	電子情報通信学会論文誌 A	J87-A	66-77		1(2)			
鶴川元雄・藤田英輔・上田英樹・野崎京三・岩本鋼司	2006	Scintrex CG-3M型重力計で測定された小笠原硫黄島の重力変化	測地学会誌	52	37-50		1(2)	2(2)		
及川 純・井田喜明・辻浩	2006	浅間山で発生する火山性地震の精密震源決定	火山	51	117-124		1(2)			2004年噴火より以前の火山性地震について震源の再決定を行った。
高橋浩晃、岡崎紀俊、岡崎紀俊、森清、松島 健、渡邊篤志、三浦 哲、中尾 茂、加藤輝之、木股文昭、笠原 稔	2002	2周波GPS受信機による2000年有珠山噴火前後の地殻変動観測	火山	47	161-166		1(2)	2(2)		
植木真人、大久保修平、大島弘光、前川徳光、孫文科、松本滋夫、小山悦郎	2005	浅間山2004年9月1日噴火前後の重力変化	火山	50	377-386		1(2)	4(1)	2(1), (2)	浅間山2004年9月1日噴火の直後に精密重力測定を実施して、約1年前の測定データと比較した。測定は絶対重力測定と相対重力測定を組み合わせたハイブリッド測定である。噴火前1年間での重力変化量は-6~+9 μgalであり、重力測定ノイズレベルと同程度である。この観測事実は、噴火直前の1年間に火道に蓄積されたマグマは2x10 ⁷ m ³ を超えなかったことを意味する。
森 健彦・平林順一・野上健治・鬼澤真也	2006	草津白根山における新たな地震観測システム	火山	51	41-47		1(2)	1		
大木章一、村上 亮、渡辺信之、浦部ぼくろう、宮脇正典	2005	航空機搭載型合成開口レーダー (SAR) 観測による浅間山2004年噴火に伴う火口クレーター内の地形変化	火山	50	401-410		1(2)	3(3)	4(1)	夜間や雲・噴煙下でも地表の状況の把握が可能なマイクロ波合成開口レーダー (Synthetic Aperture Radar: SAR) センサーを航空機に搭載して常時噴煙に覆われていた2004年浅間山噴火時の火口内の状況を観測した。それにより噴出していた熔岩の体積や表面形状を明らかにした。このデータは火山噴火予知連絡会に直ちに報告され、火山活動の評価を行う際の重要な標準データとなった。航空機SARの有用性を実証した先駆的な成果である。
Hashimoto, T., T. Mogi, et al.	2003	Self-potential studies in Volcanic area (5)- Rishiri, Kusatus-Shirane, and White Island-	J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VII,	12	93-113		1(2)			火山地質、火山活動度や表面熱活動度の異なる利尻岳、草津白根山及びニュージーランドWhite Islandの自然電位分布を比較し、その特徴を明らかにした。また、対象火山の火山地質などに加えて、他の火山における研究結果も加え、自然電位分布の特徴をもたす要因について検討し、自然電位分布を解釈する際の指針を得た。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Ishihara, K., Tameguri, T. and Iguchi, M.	2005	Automated classification of volcanic earthquakes and tremors-outline of the system and preliminary experiment-	Annuals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	48C	61-65		1(2)	2(4)		火山性地震・微動を即時自動判別するシステムのプロトタイプを作成し、口永良部島火山を対象に試行を行った。分類には、基準観測点の震動継続時間、最大振幅、スペクトルなど波形を特長付けるパラメータに加えて参照観測点との震動開始時刻の差や振幅比を用いている。8ヶ月間の試行では、台風時の擾乱と島外で発生する構造性地震の識別が出来なかった。その原因は、主として、参照観測点の選定が不適切であったことによると考えられる。台風時の擾乱と構造性地震を除けば、ほぼ適切な分類がなされた。
岡田 弘	2003	カルデラ生成をもたらす巨大火砕流と科学者たち	月刊地球	25	881-883		1(2)			
里村幹夫, 渡辺みのり, 大久保修平, 橋本成寿, 植木真人	2005	富士山周辺の精密重力測定	静岡大地球科学研究報告	32	25-30		1(2)	2(2)		
井口正人・他39名	2005	口永良部島火山における人工地震探査 探査の概要と初動の走時について	京都大学防災研究所年報	48B	297-322		1(2)			人工地震探査によって口永良部島の構造の概要が明らかになった。古期山体である番屋峰火山でも地震波が高速であった。野池火山及びその北麓は火砕流堆積物が厚く堆積しているために低速度となっている。溶岩流が分布する地域では、地震波が高速である。また、新岳などの中央火口丘周辺では散乱波の強度が強く、直下に散乱体があることが示された。このことは地下にある熱水たまりの存在を示唆する。
井口正人・他39名	2005	口永良部島火山における人工地震探査 探査の概要と初動の走時について	東京大学地震研究所彙報	80	11-40		1(2)			
鬼澤真也, 他57名	2003	有珠火山における人工地震探査-観測および初動の読み取り-	地震研究所彙報	78	121-143		1(2)			
山谷祐介, 橋本武志ほか	2005	樽前山における広帯域MT法探査-2次元比抵抗解析-	北海道大学地球物理学報告	68	127-140		1(2)			
植木真人, 大島弘光, 前川徳光, 吉田友香	2006	吾妻火山における精密重力測定網の構築	東北災害研究	42	41-46		1(2)	2(2)		
森 済, 鈴木敦生	2004	2000年有珠山活動終息後の西麓活動域における地殻変動	北海道大学地球物理学報告	67	149-155		1(2)			
青山 裕・大島弘光・鈴木敦生・前川徳光,	2004	北海道の活動的火山における最近の地震活動-十勝岳-	北海道大学地球物理学報告	67	131-136		1(2)			
青山 裕・大島弘光・鈴木敦生・前川徳光・鬼澤真也,	2004	北海道の活動的火山における最近の地震活動-北海道駒ヶ岳-	北海道大学地球物理学報告	67	89-110		1(2)			気象庁による常時観測が始まった1967年以降の北海道駒ヶ岳の地震活動についてレビューを行い、現在の地震活動を評価した。また、観測点が増強された最近の震源分布や波形の特徴を調べた。特に震源は山頂火口直下を北西端として南西方向に帯状に延びる傾向が顕著に認められ、火山体浅部の構造に規程されている可能性のあることを指摘した。
大島弘光・前川徳光・植木真人・武田嘉人	2003	北海道の火山およびその周辺地域における精密重力測定	北海道大学地球物理学報告	66	101-110		1(2)			駒ヶ岳及び周辺地域において精密重力の再測定を実施し、最近の15年間の重力変化を調べた。全体的な重力変化の傾向は山体膨張の進行を示唆し、これは他の測地観測結果とも調和的だった。また、重力変化の傾向を過去に外挿し、1929年大噴火から現在までに蓄積されたマグマ量を球状マグマ溜りモデルを用いて見積もった。この結果、既に、1929年の噴火で放出されたマグマ量に匹敵するマグマが蓄積されていることが分かった。
田中 聡, 他69名	2002	岩手山における人工地震探査-観測および初動の読み取り-	地震研究所彙報	77	1-25		1(2)	1(2)		
藤田英輔・鶴川元雄・山本英二	2002	三宅島火山活動の発端となった岩脈貫入のシナリオ	地震研究所彙報	77	67-75		1(2)	2(2)		
飛田幹男, 宗包浩志, 松坂 茂, 加藤敏, 矢来博司, 村上 亮, 藤原 智, 中川弘之, 小澤 拓	2004	干渉合成開口レーダの解析技術に関する研究	国土地理院時報	106	37-49		1(2)	3(3)		
Mori, T., Ishihara, K., Hirabayashi, J., Kazahaya, K. and Mori, T.	2004	SO2 gas monitoring by DOAS at Sakurajima and Suwanosejima volcanoses	Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	47G	157-162	×	2(1)	4(4)		
Chouet, B., P. Dawson, T. Ohminato, M. Martini, G. Saccorotti, F. Giudicepietro, G. De Luca, G. Milana, and R. Scarpa	2003	Source mechanisms of explosions at Stromboli determined from moment tensor inversions of Very-Long-Period data	J. Geophys. Res.	108	ESE7-1-ESE7-25		2(1)			
Fujita, E., M. Ukawa and E. Yamamoto	2004	Subsurface cyclic magma sill expansions in the 2000 Miyakejima volcano eruption: Possibility of two-phase flow oscillation	Journal Geophys. Res.	109	10.1029/2003JB002556		2(1)	2(2)	1(2)	2000年三宅島噴火のカルデラ形成期に発生した傾斜ステップの変動源は、地下のマグマシステムのシル状の膨張であり、この現象は圧力降下振動と呼ばれる2相流体の不安定現象で説明できることを示した。
Fujita, E., and Y. Ida	2003	Geometrical effects and low attenuation resonance of volcanic fluid inclusions for the source mechanism of volcanic tremor	J. Geophys. Res.	108	10.1029/2002JB001806		2(1)	2(2)		
Furuya M., S. Okubo, F. Kimata, R. Miyajima, I. Meilano, W. Sun, Y. Tanaka, and T. Miyazaki	2003	Mass Budget of the Magma Flow in the 2000 Volcano-Seismic Activity at Izu-Island, Japan	Earth Planets Space	55	375-385		2(1)			2000年三宅・神津島イベントに関して、三宅島や神津島において観測した重力変化や上下変動から、三宅島と神津島間に貫入したと考えられるダイクについてその供給を考察した。三宅島からの流出だけでは説明できない体積であり、イベントの後半には深部からも供給されることが考えられる。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Hasanuddin Z. Abidin, H. Andreas, M. Gamal, Ony K. Suganda, Irwan Meilano, M. Hendrasto, M. A. Kusuma, D. Darmawan, M. A. Purbawinata, A. D. Wirakusumah, and F. Kimata	2005	Ground deformation of Papandayan volcano before, during, and after the 2002 eruption as detected by GPS surveys	GPS Solut,		DOI10.1007/s10291-005-0009-1		2(1)			インドネシアのパパンダヤン火山における2002年噴火について、前後に実施したGPS観測から噴火に関連する圧力源を議論する。
Hayashi, Y. and Y. Morita	2003	An image of a magma intrusion process inferred from precise hypocentral migrations of the earthquake swarm east of the Izu Peninsula	Geophys. J. Int.	153	159-174		2(1)			伊豆半島東方沖群発地震の震源を精密に推定し、ダイク貫入を思わせる鉛直の薄い円盤状の分布であることを明らかにした。
Hidaka, M., A. Goto, S. Umino and E. Fujita	2005	VTFSS project: Development of the lava flow simulation code LavaSIM with a model for three dimensional convection, spreading, and solidification	Geochem. Geophys. Geosyst.		10.1029/2004GC0000869		2(1)			
Irwan Meilano, Fumiaki Kimata and Naoyuki Fujii	2006	Time Dependent of Magma Intrusion Model During the Early Stage of The 2000 Miyakejima Activity	Jour. Volcanology and Geothermal Research	150	202-212.		2(1)			2000年6月の三宅島におけるGPS観測データより得た地殻変動から、わずかに半日という短期間に、島の直下に3枚のダイクが貫入する時間依存モデルを推定した。
Ishimine, Y.	2004	3D simulation of a pyroclastic surge as an example of a compressible suspension flow	JSME International Journal, Series B	47	744-749		2(1)			
Ishimine, Y.	2005	Numerical study of pyroclastic surges	Journal Volcanology Geothermal Research	139	33-57		2(1)			
Kano, K.	2002	Middle Miocene volcanoclastic dikes at Kukedo, Shimane Peninsula, SW Japan: Fluidization of volcanoclastic beds by emplacement of syn-volcanic andesitic dike	J. Volcanol. Geotherm. Res.	114	81-94		2(1)			
Kano, K.	2003	Subaqueous pumice eruptions and their deposits: A review	AGU monograph	140	213-229		2(1)			
Kano, K. and Yoshikawa, T.	2005	Subaqueous eruption and emplacement of OT2 in the Middle Miocene Iizuka Formation, Noto Peninsula, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	147	309-328		2(1)			
Kazahaya, K., Shinohara, H., Uto, K., Odai, M., Nakahori, Y., Mori, H., Iino, H., Miyashita, M. and Hiranbayashi, J.	2004	Gigantic SO2 emission from Miyakejima volcano, Japan, caused by caldera collapse	Geology	32	425-428		2(1)			
Kobayashi, T, Y. Ida, and T. Ohminato	2005	Small inflation sources producing seismic and infrasonic pulses during the 2000 eruptions of Miyake-jima, Japan	Earth Planet Sci. Lett.	240	291-301		2(1)			
Kumagai, H.	2006	Temporal evolution of a magmatic dike system inferred from the complex frequencies of very-long-period seismic signals	Journal Geophys. Res.	111	10.1029/2005JB003881		2(1)	2(2)		2002年8月に発生した八丈島の群発地震と関連して発生した周期約10秒の超長周期地震のスペクトルのピークとQ値の変化から、この超長周期地震波が玄武岩質マグマと気体の混合物で満たされた岩脈の振動であり、岩脈は貫入後、少なくとも6ヶ月は存在していたことを明らかにした。
Kumagai, H., B.A. Chouet and M. Nakano	2002	Temporal evolution of a hydrothermal system in Kusatsu-Shirane Volcano, Japan, inferred from the complex frequencies of long-period events	J. Geophys. Res.	107	10.1029/2001JB000653		2(1)	2(2)		
Kumagai, H., B.A. Chouet and M. Nakano	2002	Waveform inversion of oscillatory signatures in long-period events beneath volcanoes	J. Geophys. Res.	107	10.1029/2001JB001704		2(1)	2(2)		
Kumagai, H., B.A. Chouet and P.B. Dawson	2005	Source process of a long-period event at Kilauea volcano, Hawaii	Geophys. J. Int.	161	243-254		2(1)	2(2)		
Kumagai, H., K. Miyakawa, H. Negishi, H. Inoue, K. Obara and D. Suetsugu	2003	Magmatic dike resonances inferred from very-long-period seismic signals	Science	299	2058-2061		2(1)	2(2)	1(2)	2002年8月に発生した八丈島の群発地震と関連して発生した周期約10秒、継続時間約300秒の超長周期地震を広帯域地震計で観測し、震源メカニズムと火山性流体で満たされた岩脈の波形シミュレーションにより、この超長周期地震波が玄武岩質マグマで満たされた岩脈の振動であることを明らかにした。
Matsumoto, N., T. Sato, N. Matsushima, F.Akita, T. Shibata, and A. Suzuki	2002	Hydrological anomalies associated with crustal deformation before the 2000 eruption of Usu volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2001GL013968		2(1)			
Matsushima, N.	2003	Mathematical simulation of magma-hydrothermal activity associated with the 1977 eruption of Usu volcano	Earth Planets Space	55	559-568		2(1)	2(2)		有珠山1977年噴火以降、噴気活動を中心とした熱異常が火口原に現れた。放熱量等の熱学的調査とそれに基づいた火山体内の熱伝達に関する数値シミュレーションを行い、貫入したマグマによる熱水系の形成機構を考察した。その結果、噴火以降現れた熱異常は貫入したマグマによってもたらされており、その放熱過程を反映していることが確認された。
Meilano I., F.Kimata, N. Fujii, S. Nakao, H. Watanabe, S. Sakai, M. Ukawa, E.Fujita, and K. Kawai	2003	Rapid Deformation of Miyakejima Volcano on June 26-27, 2000 Detected by Kinematic GPS Analysis	Earth Planets Space	55	e13-e16		2(1)			2000年三宅島噴火の契機となった6月26日の群発地震について、GPS観測データを30秒ごとに解析し、地殻変動を詳細に検出する。そして、急速な地殻変動のメカニズムとして1時間にも満たない1時間でのダイク貫入を推定した。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Miyagi, Y., J.T. Freymueller, F. Kimata, T. Sato, and D. Mann	2004	Surface Deformation Caused by Shallow Magmatic Activity at Okmok Volcano, Alaska, Detected by GPS Campaigns 2000-2002	Earth Planets and Space	Vol. 56	E29-E32		2(1)			アリユージャン列島オクモク火山において2000年から2002年までGPSキャンペーンを実施した。カルデラ内で最大年間10cmに達する地殻変動が検出でき、カルデラ中央に球状圧力源が推定された。
Morita, Y., S. Nakao and Y. Hayashi	2006	A quantitative approach to the dike intrusion process inferred from a joint analysis of geodetic and seismological data for the 1998 earthquake swarm off the east coast of Izu Peninsula, central Japan	J. Geophys. Res.	111	10.1029/2005JB003860		2(1)			伊豆半島東方沖のダイク貫入現象に伴う群発地震活動を地震と地殻変動データを同時に解析し、ダイク内部の圧力、ダイク内マグマの粘性等を定量的に推定した。
Murase, M., M. Irwan, S. Kariya, T. Tabei, T. Okuda, R. Miyajima, J. Oikawa, H. Watanabe, T. Kato, S. Nakao, M. Ukawa, E. Fujita, M. Okayama, F. Kimata, and N. Fujii	2006	Time Dependent Model of Magma Intrusion in and around Miyake and Kozu Islands, Central Japan in June-August, 2000	Jour. Volcanology and Geothermal Research	150	213-231		2(1)			2000年6月の三宅・神津島間で発生した大規模な群発地震について、本論分では、神津島や新島などの近場のGPS観測データからダイク貫入過程を推定し、3枚のダイク貫入とその間にM6クラスの地震発生モデルを考察した。ダイクはすべて三宅島から流出しただけでないことが明らかになった。
Nakano, M., H. Kumagai and B.A. Chouet	2003	Source mechanism of long-period events at Kusatsu-Shiranevolcano, Japan, inferred from waveform inversion of the effective excitation functions	Journal Volcanol. Geotherm. Res.	122	149-164		2(1)	2(2)		
Nishimura, T. M. Ichihara and s. Ueki	2006	Investigation of the Onikobe geyser, NE Japan, by observing the ground tilt and flow parameters	Earth, Planet. Space	58	e21-e24		2(1)	2(4)		
Nogami, K.	2004	Relationship in chemical composition between mother solution and allophane-like aluminosilicate precipitate through neutralization of acid hydrothermal water by seawater	EPS	56	457-462		2(1)			
Ohminato, T., M. Takeo, H. Kumagai, T. Yamashina, J. Oikawa, E. Koyama, H. Tsuji and T. Urabe	2006	Vulcanian eruptions with dominant single force components observed during the Asama 2004 volcanic activity in Japan	Earth, Planet. Space	58	583-593		2(1)	2(2)	1(2)	浅間山の2004活動中に5回発生した中規模ブルカノ式噴火について、広帯域地震計による地震波形観測データを解析し、噴火時に火道内で作用した力の時間変化を明らかにした。火道内で作用する力は上下方向のシングルフォース成分が卓越しており、噴火直前に火道内に蓄積した高圧ガスの急速な放出と、それに続くマグマの火道内上昇により説明することが可能であることを示した。
Satoh, H., Saito, G., Shinohara, H., Yamaguchi, Y.	2003	Sulfur source for the 1991-1995 Unzen eruption:Evidence from melt inclusions in pyroxenes	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2003GL0017629		2(1)	2(2)		
Shibata, T., N. Matsumoto and F. Akita	2003	Fluctuation in groundwater level prior to the critical failure point of the crustal rocks	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL016050		2(1)			
Shinohara, H. and J.B. Witter	2005	Volcanic Gases Emitted during Mile-Strombolian activity of Villarrica Volcano, Chile	Geophys. Res. Lett.	32	10.1029/2005 G L 024131		2(1)	2(5)		小規模なストロンボリ式噴火を継続しているチリ・ビジャリカ火山において、新規開発の携帯型センサーを用いた火山噴煙組成の観測を実施し、火山ガス組成及びその時間変動の有無を明らかにした。既存のメルト包有物データとの比較から、火山ガスは低圧下でマグマから放出されたものであることが明らかにされた。
Takeuchi, S., S. Nakashima, A. Tomiya and H. Shinohara	2005	Experimental constraints on the low gas permeability of vesicular magma during decompression	Geophys. Res. Lett.	32	10.1029/2005 G L 022491		2(1)			
Tameguri, T., Iguchi, M. and K. Ishihara.	2002	Mechanism of explosive eruptions from moment tensor analyses of explosion earthquakes at Sakurajima volcano, Japan	Bull. Volcanol. Soc. Japan	47	197-215		2(1)	4(4)		桜島火山で発生する爆発地震について、地中地震計及び広帯域地震計のデータを用いて詳細な震源過程を明らかにした。また、震源過程に空気振動、地盤変動データを併せて爆発的噴火の力学過程を考察した。火口直下2km付近で爆発地震が発生し、圧力波が上方へ伝播し、約1秒後に火口底下にあるガスポケットが破裂することにより爆発的噴火が発生すると考えられる。
Ueda., E. Fujita, M. Ukawa, E. Yamamoto, M. Irwan and F. Kimata	2005	Magma intrusion and discharge process at the initial stage of the 2000 activity of Miyakejima, Central Japan, inferred from tilt and GPS data	Geophys. J. Int.	161	891-906		2(1)			2000年6月26～27日において三宅島で観測された傾斜変動と水平・上下変動から三宅島島内におけるダイクの急速な貫入モデルを考察する。
Yuasa, M. and Kano, K.	2003	Submarine sillicic calderas on the northern Shichito-Iwojima Ridge, Izu-Ogasawara (Bonin) Arc, western Pacific	AGU monograph	140	231-243		2(1)			
渡辺秀文	2003	最近の噴火活動と噴火予知（物理観測の立場から）	火山	48	87-93		2(1)			
鍵山恒臣・小山悦郎	2006	浅間火山2004年噴火に関連した噴煙の時間変動	火山	51	75-89		2(1)			噴煙の噴出にはある種のリズムがあると思われる。このリズムを、赤外・可視映像の画像解析によって定量的に検討する手法を開発した。本論文では、赤外映像から得られる温度の時間変化から噴煙の噴出のリズムを定量化した。その結果、浅間山の噴火において、噴火活動が活発になるにつれて、噴煙の発生間隔が短くなることを明らかにした。

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
坂東信人・飯屋新一・木股文昭・中尾茂・及川純・渡辺秀文・鶴川元雄・藤田英輔・河合晃司・松島健	2005	GPS観測による2000年7月14日三宅島噴火前後の地殻変動	火山	第50巻第3号	173-182		2(1)			2000年三宅島噴火に関連し、活動が頂上部に移動した7月14日の噴火に関して、島内のGPS観測データによる地殻変動から、噴火前に頂上直下に膨張の圧力源が存在していたことを明らかにした。
鹿野和彦・吉村洋平・石山大三・G.J.Orton・大口健志	2006	北海道奥尻島、勝淵山火山の噴出物と構造	火山	51	印刷中		2(1)			
鹿野和彦・大口健志	2004	八幡平西方、玉川溶結凝灰岩中に見出された給源不明の火山砕屑堆積物	火山	49	283-297		2(1)			
鹿野和彦・大口健志・林信太郎・宇都浩三・檀原徹	2002	戸賀火山：東北日本、男鹿半島西端のアルカリ流紋岩質タフリング	火山	47	373-396		2(1)			
森田裕一・大湊隆雄	2005	火山における地震観測の発展と成果	火山	50	S77-S100		2(1)			
東宮昭彦・宮城磯治	2002	有珠火山2000年3月31日噴火の噴出物とマグマプロセス	火山	47	663-673		2(1)	2(2)		
馬越孝道・清水洋・松尾のり道	2002	雲仙普賢岳溶岩ドーム成長にともなう地震活動（1993年11月～1994年1月）：波形の相互相関による地震のグループ分け	火山	47	43-55		2(1)			
木股文昭	2003	三宅島噴火に伴う地殻変動	月刊地球	25	36-40		2(1)	2(2)	2(3)	2000年三宅島火山噴火に関して、島内で実施されていたGPS観測から検出された地殻変動を検討し、島内におけるマグマ貫入過程を考察する。
Irwan Meilano・木股文昭・藤井直之・中尾茂・渡辺秀文・藤田英輔・鶴川元雄・河合晃司・村上亮	2002	2000年6月26～27日に三宅島火山でGPSにより観測された迅速地殻変動とダイク貫入モデル	月刊地球	号外No.39	108-114		2(1)			
Yokoo, A. and Ishihara, K..	in press	Pressure waves derived from eruption movie images of Sakurajima Volcano	Annals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	49C			2(1)			
為栗健、井口正人、八木原寛	2004	諏訪之瀬島火山において2003年11月に発生した噴火地震の初動解析	京都大学防災研究所年報	47B	773-778		2(1)	4(5)	1(1)	
メイラノ イルワン・木股文昭・藤井直之・中尾茂・渡辺秀文・藤田英輔・鶴川元雄・河合晃司・村上亮	2002	2000年6月26～27日に三宅島火山でGPSにより観測された迅速な地殻変動とダイク貫入モデル	月刊地球	特集「活動的火山」	108-114		2(1)			2000年三宅島噴火の契機となった6月26日の群発地震について、GPS観測データを30秒ごとに解析し、地殻変動を詳細に検出する。そして、急速な地殻変動のメカニズムとして1時間にも満たない時間でのダイク貫入を推定した。
山本圭吾・石原和弘・高山鐵朗	2002	桜島火山の噴火活動に伴う地盤傾斜変動	月刊地球	号外	187-192		2(1)	4(4)		
渡辺秀文	2003	火山性地殻変動と重力変化	月刊地球	25	97-102		2(1)			
井口正人	2005	地球物理学的観測から見た火山爆発のダイナミクス 桜島を例として	火山	50	S139-S149		2(1)	4(4)		
寺田暁彦	2004	樽前山A火口の放熱量推定-Plume Rise法を火山噴気に適用する注意点-、北大地球物理報告	北海道大学地球物理学報告	67	327-335		2(1)	2(4)		
寺田暁彦、中川光弘・大島弘光・青山裕・神山裕幸、	2004	2003年十勝沖地震(Mj8.0)発生直後に樽前火山で起きた高感度カメラで明るく見える現象	東京大学地震研究所彙報	79	17-26		2(1)			
神田 径、田中 良和、宇津木 充、高倉 伸一、橋本武志、井上 寛之、岡田靖章	2006	阿蘇中岳周辺の比抵抗構造	CA研究会2006年論文集		印刷中		2(1)			
西村太志・井口正人	2006	日本の火山性地震と微動	京都大学学術出版会				2(1)			
青山 裕・大島弘光・鈴木敦生・前川徳光、	2004	北海道の活動的火山における最近の地震活動・樽前山	北海道大学地球物理学報告	67	111-130		2(1)	1(2)		気象庁による常時観測が始まった1967年以降の樽前山の地震活動についてレビューを行い、現在の地震活動を評価した。また、低周波地震と熱水活動の関連性を示す数少ない観測事例として、2003年9月26日の十勝沖地震直後に観測された低周波地震の小群発活動と、これに続く表面熱活動の活発化について予備的な考察を行い、熱活動の時間的な遅れは低周波地震活動によって解放された火山性流体の上昇で説明できることを指摘した。
村瀬雅之・木股文昭・宮島力雄・メイラノ イルワン・奥田 隆	2002	2000年イベント以降の神津島周辺域における地殻変動と圧力源の推定	月刊地球	特集「活動的火山」	102-107		2(1)			三宅と神津島など伊豆諸島におけるGPS観測から検出された2000年6～8月の地殻変動を整理した。そして、そのメカニズムとして、三宅と神津島間に巨大なダイクの貫入を推定した。
大島弘光・小野 忍・西田泰典	2004	北海道駒ヶ岳の1929年噴火で生じた噴煙柱の定常ブリュムモデルによる解析	北海道大学地球物理学報告	67	157-166		2(1)			
中田節也、佐久間澄夫、宇都浩三、清水洋	2005	雲仙火道掘削の科学的成果の概要	地熱技術	30	45-52		2(1)	2(2)		
Aizawa, Y., K. Ito and Y. Tatsumi	2002	Compressional wave velocity of granite and amphibolite up to melting temperatures at 1 GPa	Tectonophs.	351	255-261		2(2)			
Aka F.T., Nagao K., Kusakabe M., Sumino H., Tanyileke G., Ateba B. and Hell J.	2004	Symmetrical helium isotope distribution on the Cameroon Volcanic Line, West Africa	Chem. Geol.	203	205-223		2(2)	2(5)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Bindeman, I.N., J.M. Eiler, G.M. Yogodzinski, Y. Tatsumi, C.R. Stern, T.L. Grove, M. Portnyagin, K. Hoernle, and L.V. Danuyshvsky	2005	Oxygen isotope evidence for slab melting in modern and ancient subduction zones	Earth. Planet. Sci. Lett.	235	480-496		2(2)			
Embley, R. W., W. W. Chadwick Jr., E. T. Baker, D. A. Butterfield, J. A. Resing, C. E. J. de Ronde, V. Tunncliffe, J. E. Lupton, S. K. Juniper, K. H. Rubin, R. J. Stern, G. T. Lebon, K. Nakamura, S. G. Merle, J. R. Hein, D. A. Wiens and Y. Tamura	2006	Long-term eruptive activity at a submarine arc volcano	Nature	441	494-497		2(2)			
Giggenbach, W.F., H. Shinohara, T. Ohba and M. Kusakabe	2002	Formation of acid volcanic brines through interaction of magmatic gases, seawater and rock within the White Island volcanic-hydrothermal system, New Zealand	Soc. Econ. Geol. Spec. Publ.	10	19-40		2(2)	2(5)		
Hanyu, T., Y. Tatsumi, and S. Nakai	2002	A contribution of slab-melts to the formation of high-Mg andesite magmas; Hf isotopic evidence from SW Japan	Geophys. Res. Lett.		doi:10.1029/2002GL015856		2(2)			
Hasanuddin Z. A., H. Andreas, M. Gamal, Hendrasto, M., Suganda, O. K., Purbawinata M. A., Irwan M., Kimata F.	2004	The deformation of Bromo Volcano (Indonesia) as detected by GPS surveys method	Journal of Global Positioning Systems	3	16-24		2(2)			2001-2004年間にインドネシアのブローモ火山で実施したGPS観測やEDM測量から観測した地殻変動が、火山直下の浅部に球状圧力源を仮定することにより説明できることを明らかにした。
Hernandez P., Perez N., Salazar J., Reimer M., Notsu K. and Wakita H.	2004	Radon and helium in soil gases at Canadas caldera, Tenerife, Canary Islands, Spain.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	131	59-76		2(2)	2(5)		
Hernandez P.A., Notsu K., Okada K., Mori T., Sato M., Barahona F. and Perez N.M.	2006	Diffuse emission of CO ₂ from Showa-Shinzan, Hollaido, Japan: a sign of volcanic domedegassing.	Pure Appl. Geoph.	163	869-881		2(2)			
Kagiyama, T.	2004	Water saturated layer beneath volcano and its implications to volcanic activity	Indonesian Journal of Physics	15	6-11		2(2)			
Kimata, F., R. Miyajima, M. Murase, D. Darwaman, T. Ito, Y. Ohata, M. Irwan, K. Takano, F. Ibrahim, E. Koyama, H. Tsuji, T. Takayama, K. Uchida, J. Okada, D. Solim and H. Anderson	2004	Ground Uplift Detected by Precise Leveling in the Ontake Earthquake Swarm Area, Central Japan in 2002-2004	Earth Planets and Space	12	E45-E48		2(2)			2002年から実施している水準測量で、御嶽山東麓の群発地震震源域で隆起の上下変動を観測した。
Kusakabe M., Ohwada M., Satake H., Nagao K. and Kawasaki I.	2003	Helium isotope ratios and geochemistry of volcanic fluids from the Norikura Volcanic Chain, central Japan: Implications for crustal structures and seismicity	Soc. Economic Geologists	10	75-89		2(2)			
Matsumoto, S., H. Shimizu, M. Onishi, K. Uehira, and N. Matsuwo	in press	Crustal structure beneath Unzen volcano, Kyushu, Japan by seismic reflection survey	J. Volcan. Geoth. Res.				2(2)	2(1)		雲仙普賢岳のマグマ供給系を明らかにするために、雲仙地溝を横切る測線で反射法地震探査を行った。その結果、この地域では正断層が発達していることが明瞭に示された。また、reflectiveな領域は深さ約1 kmまで続き、雲仙地溝の発達によって形成されたと考えられる。さらに、浅部においては溶岩ドームの直下で背斜構造が見られ、過去の活動においては大規模な貫入があったことを示した。推定されるマグマ上昇経路については、深さ約3 kmでは顕著な反射面として、3 km以浅については鉛直にのびる弱反射域としてイメージされ、反射法探査がマグマ供給系のイメージングに有力であることが確認できた。
Minoru Takeo, Yosuke Aoki, Takao Ohminato, and Maki Yamamoto	in press	Magma supply path beneath Mt. Asama volcano, Japan	Geophys. Res. Lett.				2(2)			2004年噴火の震源域の決定を行った結果、火道が見てきた。
Morita, Y., S. Nakao, and Y. Hayashi	2006	A quantitative approach to the dike intrusion process inferred from a joint analysis of geodetic and seismological data for the 1998 earthquake swarm off the east coast of Izu Peninsula, central Japan	J. Geophys. Res.,	111	10.1029/2005JB003860		2(2)			
Murase, M., M. Irwan, S. Kariya, T. Tabei, T. Okuda, R. Miyajima, J. Oikawa, H. Watanabe, T. Kato, S. Nakao, M. Ukawa, E. Fujita, M. Okayama, F. Kimata, N. Fujii	2006	Time dependent model of magma intrusion in and around Miyake and Kozu Islands, Central Japan in June-August, 2000	Jour. Vol. Geotherm. Res	150	213-231		2(2)			2000年6月から8月まで三宅島から神津島にかけて発生した群発地震活動に伴う地殻変動源をGPSを使った変位データをもとにモデル化を行い、変動源での開口断層運動の時間変化を求めた。この解析結果より群発地震活動域にマグマ貫入があったことが示唆された。
Nakamichi, H., H. Hamaguchi, S. Tanaka, S. Ueki, T. Nishimura, and A. Hasegawa	2003	Source mechanism of deep and intermediate-depth low-frequency earthquakes beneath Iwate volcano, northeastern Japan	Geophys. J. Int.	154	811-828		2(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Nakamichi, H., H. Watanabe, and T. Ohminato	2006	Three-dimensional velocity structures of Mount Fuji and the South Fossa Magna, central Japan	Journal of Geophysical Research		doi:10.1029/2005JB004161		2(2)	5		稠密地震観測から富士山の詳細な速度構造を明らかにする。低周波地震発生域は低速度、低Vp/Vsであり、揮発性流体が蓄積されておりそれが低周波地震の発生に関与していることが示唆された。さらに、低周波地震発生域直下に低速度、高Vp/Vs領域があり、マグマの存在が示唆された。また、逆断層でスライスされたフィリピン海プレートが陸側のプレートに縮合している様子が鮮明にされた。
Nakamichi, H., S. Tanaka, and H. Hamaguchi	2002	Fine S wave velocity structure beneath Iwate volcano, northeastern Japan, as derived from teleseismic receiver functions	J. Volcanol. Geotherm. Res.	116	235-255		2(2)			
Nakano, M. and H. Kumagai	2005	Response of a hydrothermal system to magmatic heat inferred from temporal variations in the complex frequencies of log-period events at Kusatsu-Shirane Volcano, Japan	Journal of Volcanology and Geothermal Research	147	233-244		2(2)	2(1)	1(2)	
Nishimura, T., S. Tanaka, T. Yamawaki, H. Yamamoto, T. Sano, M. Sato, H. Nakahara, N. Uchida, S. Hori, and H. Sato	2005	Temporal changes in seismic velocity of the crust around Iwate volcano, Japan, as inferred from analyses of repeated active seismic experiment data from 1998 to 2003	Earth, Planet. Space	57	491-505		2(2)	3(4)		
Nishimura, T., S. Ueki, T. Yamawaki, S. Tanaka, H. Hashino, M. Sato, H. Nakamichi, and H. Hamaguchi	2002	Broadband seismic signals associated with the 2000 volcanic unrest of Mount Bandai, Northeastern Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	119	51-59		2(2)			
Notsu K., Mori T., Chanchan do Vale S., Kagi H. and Ito T.	2006	Monitoring of quiescent volcanoes by diffuse CO ₂ degassing: case study of Mt.Fuji, Japan	Pure Appl. Geoph.	163	825-835		2(2)			
Notsu K., Sugiyama K., Hosoe M., Uemura A., Shimoike Y., Tsunomori F., Sumino H., Yamamoto J., Mori T. and Hernandez P.A.	2005	Diffuse CO ₂ efflux from Iwojima volcano, Izu-Ogasawara arc, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	139	147-161		2(2)			
Ohwada M., Ohba T., Hirabayashi J., Nogami K., Nakamura K. and Nagao K	2003	Interaction between magmatic fluid and meteoric water, inferred from ¹⁸ O/ ¹⁶ O and ³⁶ Ar/H ₂ O ratios of fumarolic gases at the Kusatsu Shirane volcano, Japan.	Earth Planet Space	55	105-110		2(2)			
Okubo, A., T.Nakatsuka, Y.Tanaka, T.Kagiyama, and M.Utsugi	2006	Aeromagnetic constraints on the subsurface structure of the Unzen Graben, Kyushu, Japan	Earth Planets Space	58	23-31		2(2)			雲仙火山において行われた空中磁気探査データを詳細に解析し、基盤、古期雲仙火山噴出物、新規雲仙火山噴出物、熱変質を受けた領域などの構造を明らかにした。熱変質を受けた領域の一部は、比抵抗構造調査により明らかにされたコンダクタンス（電気伝導度の鉛直積分値）の高い領域と一致しており、島原半島西部から普賢岳へマグマが移動する際に、揮発性成分が脱ガスしたことを示す証拠と考えられる。
Okubo, A., Y. Tanaka, M. Utsugi, N. Kitada, H. Shimizu, and T. Matsushima	2005	Magnetization intensity mapping on Unzen Volcano, Japan, determined from high-resolution, low-altitude helicopter-borne aeromagnetic survey.	Earth, Planets and Space	57	743-753		2(2)	1(2)		
Onizawa, S., H. Mikada, H. Watanabe, and S. Sakashita	2002	A method for simultaneous velocity and density inversion and its application to exploration of subsurface structure beneath Izu-Oshima volcano, Japan	Earth Planets Space	54	803-817		2(2)			重力異常及び地震波走時異常データを用いた協調インバージョン手法を開発し、伊豆大島火山に適用してその浅部構造を詳細に解明した。
Perez N. M., Hernandez P.A., Castro L., Salazar J.M.L., Notsu K., Mori T. and Okada H	2002	Distribution of boron and ammonia in soil around Usu volcano, Japan, prior to the 2000 eruption	J. Volcanol. Soc. Japan	47	347-351		2(2)	1(2)		
Shimano, T. and Nakada, S.	2006	Vesiculation path of ascending magma in the 1983 and the 2000 eruptions of Miyakejima volcano, Japan	Bull. Volcanol.	68	549-566		2(2)			三宅島の1983年と2000年噴火のマグマの発泡過程について議論。
Shimizu A., Sumino H., Nagao K., Notsu K., and Mitropoulos P	2005	Variation in noble gas isotopic composition of gas samples from the Aegean arc, Greece.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	140	321-339		2(2)	2(5)		
Shimoda, G., Y. Tatsumi and Y. Morishita	2003	Behavior of subducting sediments beneath an arc under high geothermal gradient: Constraints from the Miocene SW Japan arc	Geochem. J	37	503-518		2(2)			
Shukuno,H., Y. Tamura, K. Tani, Q. Chang, T. Suzuki and R. S. Fiske	in press	Origin of silicic magmas and the compositional gap at Sumisu submarine caldera, Izu-Bonin arc, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.				2(2)			
Sumino H., Notsu K., Nakai S., Sato M., Nagao K., Hosoe M. and Wakita H.	2004	Noble gas and carbon isotopes of fumarolic gas from Iwojima volcano, Izu-Ogasawara arc, Japan: implications for the origin of unusual arc magmatism.	Chem. Geol.	209	153-173		2(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Takahashi, H., K. Kazahaya, H. Shinohara and T. Nakamura	2004	Pathways for escape of magmatic carbon dioxide to soil air at Unzen volcano, SW Japan	Radiocarbon	46	491-496		2(2)	2(4)		
Takakura, S. and N. Matsushima	2003	Magnetotelluric investigation of the hydrothermal system and heat source in the Muine-Toyoha geothermal area, Hokkaido, Japan	RESOURCE GEOLOGY	53	213-220		2(2)	2(1)		
Tamura, Y.	2003	Some geochemical constraints on hot fingers in the mantle wedge: evidence from NE Japan	Intra-oceanic subduction systems: tectonic and magmatic processes	219	221-237.		2(2)			
Tamura, Y. and R. Wysoczanski	in press	Silicic volcanism and crustal evolution in oceanic arcs: introduction	J. Volcanol. Geotherm. Res.				2(2)			
Tamura, Y. and Y. Tatsumi	2002	Remelting of an andesitic crust as a possible origin for rhyolitic magma in oceanic arcs: an example from the Izu-Bonin arc	J. Petrol.	43	1029-1047		2(2)			
Tamura, Y., K. Tani, O. Ishizuka, Q. Chang, H. Shukuno and R. S. Fiske	2005	Are arc basalts dry, wet, or both? Evidence from the Sumisu caldera volcano, Izu-Bonin arc, Japan	J. Petrol.	46	1769-1803		2(2)			
Tamura, Y., M. Yuhara, T. Ishii, N. Irino and H. Shukuno	2003	Andesites and dacites from Daisen volcano, Japan: partial-to-total remelting of an andesite magma body	J. Petrol.	44	2243-2260		2(2)			地殻内ブルトンの再溶融で安山岩マグマが形成されることを、記載岩石学的に示した。
Tamura, Y., Y. Tatsumi D. Zhao, Y. Kido and H. Shukuno	2002	Hot fingers in the mantle wedge: new insights into magma genesis in subduction zone	Earth. Planet. Sci. Lett.	197	105-116		2(2)			東北日本弧の不均一な火山分布、基盤地形と火山分布の相関などは、マントルウェッジ内に存在する指状の高温領域の存在で支配されている。この高温領域は、地震波トモグラフィーによっても、検出できる。
Tanaka, S., H. Hamaguchi, S. Ueki, M. Sato, and H. Nakamichi	2002	Migration of seismic activity during the 1998 volcanic unrest at Iwate volcano, northeastern Japan, with reference to P and S wave velocity anomaly and crustal deformation	J. Volcanol. Geotherm. Res.	113	399-414		2(2)			1998年に火山活動が活発化した岩手火山における地震活動について、P波、S波速度構造と関連づけて調べた。1998年2月、岩手火山のカルデラの下で地震活動が始まり、2月から8月にかけて、それまででない激しい地震活動が観測された。この間、震源分布は西側に伸展した。地震活動と同時に、マグマの西側への貫入を示す地盤変動も観測された。地震活動や貫入は、自然地震データから求めた三次元速度構造モデルの中の高Vp域、高Vp/Vs域に分布している。
Tanaka, S., H. Hamaguchi, T. Nishimura, T. Yamawaki, S. Ueki, H. Nakamichi, T. Tsutsui, H. Miyamachi, N. Matsuwo, J. Oikawa, T. Ohminato, K. Miyaoka, S. Onizawa, T. Mori, and K. Aizawa	2002	Three-dimensional P-wave velocity structure of Iwate volcano, Japan from active seismic survey	Geophys. Res. Lett.	29	10.1029/2002GL014983		2(2)	1(2)		2000年10月に実施された岩手火山構造探査によって深さ2kmまでの三次元P波速度構造モデルが得られた。カルデラの下には、深さ2kmからカルデラに延びる高速度域がある。他方、カルデラの西方は中程度の速度域であるが、山頂下と東山腹は低速度の物質で覆われている。西方と東方での速度分布の違いは、西から東に伸展した火山形成史で説明できる。さらに、1998年の火山活動との比較から、火山体の構造が火山活動を規定していたことを発見した。
Tatsumi, Y	2003	Some constraints on arc magma genesis	Inside the Subduction Factory: AGU Geophysical Monograph	138	77-292		2(2)			
Tatsumi, Y	2003	High-Mg andesite genesis, Continental Crust formation, and Mantle evolution (in Japanese)	University of Tokyo Press		pp. 213		2(2)			
Tatsumi, Y.	2005	The subduction factory: How it operates in the evolving Earth	GSA Today	15	7-10		2(2)			沈み込み帯が、巨大な工場として機能し、大陸地殻・マグマなどの製品を作る過程で生まれる廃棄物は、マントル深部地球化学的貯蔵庫へと変化し、ホットスポットマグマの原料としてリサイクルされる。
Tatsumi, Y.	2004	Magmatological approaches to subduction zone processes: towards a comprehensive understanding of arc evolution (in Japanese)	J. Geol. Soc. Japan	110	244-250		2(2)			
Tatsumi, Y.	2006	High-Mg Andesites in the Setouchi Volcanic Belt, Southwestern Japan: Analogy to Archean Magmatism and Continental Crust Formation?	Ann. Rev. Earth Planet. Sci.	34	467-499		2(2)			
Tatsumi, Y. and T. Hanyu	2003	Geochemical modeling of dehydration and partial melting of subducting lithosphere: Towards a comprehensive understanding of high-Mg andesite formation in the Setouchi volcanic belt, SW Japan	Geochem. Geophys. Geosys.	4	doi: 10.1029/2003GC000530		2(2)			
Tatsumi, Y. and T. Kogiso	2003	The subduction factory: its role in the evolution of the Earth's crust and mantle	Intra-Oceanic Subduction Systems: Tectonic and Magmatic Processes	219	55-80		2(2)			
Tatsumi, Y., H. Kawabata, K. Sato, T. Miyazaki, C. Qing, T. Takahashi, K. Tani, T. Shibata and M. Yoshikawa	2005	The Petrology and Geochemistry of Oto-Zan Composite Lava Flow on Shodo-Shima Island SW Japan: Remelting of a Solidified High-Mg Andesite Magma	J. Petrol.	47	595-629		2(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Tatsumi, Y., H. Shukuno, K. Sato, T. Shibata and M. Yoshikawa	2003	The petrology and geochemistry of high-magnesium andesites at the western tip of the Setouchi volcanic belt, SW Japan	J. Petrol.	44	1561-1578		2(2)			
Tatsumi, Y., H. Shukuno, M. Yoshikawa, Q. Chang, K. Sato and M. W. Lee	2005	The petrology and geochemistry of volcanic rocks on Jeju Island: Plume magmatism along the Asian continental margin	J. Petrol.	46	523-553		2(2)			
Tatsumi, Y., T. Nakashima and Y. Tamura	2002	The petrology and geochemistry of calc-alkaline andesites on Shodo-Shima Island, SW Japan	J. Petrol.	43	3-16		2(2)			
Tomiya, A. and Takahashi, E.	2005	Evolution of the Magma Chamber Beneath Usu Volcano Since 1663: A Natural Laboratory for Changing Phenocryst Minerals	Jour.Petrol.	46	2395-2426		2(2)	2(3)		有珠火山の1663年噴火以降のマグマ溜りの進化過程を調べるため、各噴出物中の斑晶鉱物の化学組成や累帯構造等を分析した。その結果、300年間以上（8回以上の噴火）に渡る斑晶の成長・分解・拡散の様子が観察され、この期間に渡ってマグマ溜りが存在し続けていることが分かった。さらに、多くの噴火でマグマ混合を伴っていること、マグマの温度が時代とともに次第に上昇していることなどが明らかになった。
Tosya, T., N. Matsushima and T. Ishido	2003	Zeta potential measured for an intact granite sample at temperatures to 200C	Geophys. Res. Lett.	30	10.1029/2002GL016608		2(2)	2(1)		
Ueda, H., E. Fujita, M. Ukawa, E. Yamamoto, M. Irwan and F. Kimata	2005	Magma intrusion and discharge process at the initial stage of the 2000 activity of Miyakejima, central Japan, inferred from tilt and GPS data	Geophysical J. Int.	161	891-906		2(2)	1(2)	2(1)	2000年三宅島噴火活動の初期に貫入した岩脈の位置や大きさの時間変化を島内の傾斜計やGPSによる観測データから推定し、主たる変動は三つの岩脈の貫入と一つの岩脈状マグマ溜りの収縮で説明できることを示した。
Yamawaki, T., S. Tanaka, S. Ueki, H. Hamaguchi, H. Nakamichi, T. Nishimura, and et al.	2004	Three-dimensional P-wave velocity structure of Bandai volcano in northeastern Japan inferred from active seismic survey	J. Volcanol. Geotherm. Res.	138	267-282		2(2)	1(2)		磐梯火山のP波速度構造について、8個の爆破を298点で観測した約2,200の走時データを用いて明らかにした。山頂直下には $v_p > 4.6 \text{ km/s}$ の高速度域が海面下2km以深から0km付近まで、盛り上がるように分布していることが示された。磐梯山では、山頂を中心として多方向に山体崩壊と山体再生を繰り返していることから、高速度域はほぼ固結状態のマグマ供給系を表すと考えられる。2000年に発生した高周波地震は山頂の両側に分布し、低周波地震はその中間に分布している。
Zheng, Z., H. Tanaka, Y. Tatsumi and M. Kono	2002	Basalt platforms in Inner Mongolia and Hebei Province, northeastern China: new K-Ar ages, geochemistries, and revision of paleomagnetic results	Geophys. J. Intern	151	654-662		2(2)			
植田義夫	2006	三宅島の3次元磁気構造と2000年噴火によるその変化	火山	51	161-174		2(2)			観測された地磁気全磁力異常を2段階の解析手順を踏み平均磁化強度からの偏差として3次元各ブロックの磁化強度分布を求めた。この解析方法により三宅島における1987年、1999年及び2001年の観測の火口付近での総磁気モーメントの違いを論じ解析手法の検証を行っている。
大久保綾子・田中良和・鍵山恒臣・宇津木 充・神田 径	2006	ヘリボーン空中磁気探査から推定される雲仙西部地域の磁化強度分布	火山	51	175-181		2(2)			
岡田義光	2003	断層モデルによる地表上下変動のパラドックス	測地学会誌	49	99-119		2(2)			
小荒井衛、長谷川裕之、飯田洋、松尾 馨、渡辺信之、鈴木弘	2002	写真測量技術で面的に捉えた有珠山火山活動に伴う地表変動	火山	47	139-150		2(2)	3(3)		
島伸和・西澤あずさ・川田佳史	2005	水曜海山の地球物理学的構造と海底熱水循環系	海の研究 (Oceanography in Japan)	14	139-150		2(2)			水曜海山を対象に行なった地球物理学的調査により、1)西峯山体は、78万年以後に生成し、その後火口斜面の崩落を起す活動起こった。2)火口西側に直径800 mの磁化を失った領域が広がっている。3)P波速度 $2.2 \sim 4.2 \text{ km s}^{-1}$ の層が海底下2 kmまで存在する。4)震源は、火口の海底下3~8 kmの範囲で、煙突状に分布していることの4点を明らかにし、火道冷却モデルを提案し、これを数値シミュレーションで検証した。
吉田則夫・奥澤保・塚原弘昭	2002	同位体比から見た松代群発地震域の深部流体の起源	地震, 第2輯	55	207-216		2(2)			
鬼澤真也・森 健彦・筒井智樹・平林順一・野上健治・小川康雄・松島 健・鈴木敦生	2005	人工地震探査より推定した草津白根火山白根火砕丘表層のP波構造	火山	50	.9-16.		2(2)	2		
橋本武志	2005	火山の電磁気観測 -歴史・意義・展望-	火山	50	S115-S138		2(2)	1(2)		
高橋浩晃・岡崎紀俊・石丸聡・森濟・松島健・渡邊憲志・三浦哲・中尾茂・加藤照之・木股文昭・笠原稔	2002	2周波GPS受信機による2000年有珠山噴火前後の地殻変動観測	火山	47	161 - 166		2(2)			2000年3月31日13時7分から始まる有珠山の噴火活動以前(3月28日)に6観測点においてGPS観測が開始され、噴火直前までに1 mを超える非常に大きな地殻変動の進行を明らかにした。また、携帯電話などによるデータ回収からデータ解析、結果のWEBへの表示までを自動化し、火山活動監視の効率化がはかれることを示した。
高橋成美・三ヶ田 均・末広 潔・ト部卓・清水 洋	2002	エアガン人工地震データ解析による島原半島の地殻構造	火山	47	461-473		2(2)			
斎藤 元治	2005	マグマ中の揮発性物質の挙動とマグマ上昇・噴火プロセス-メルト包有物からのアプローチ-	火山	50	S177-S192		2(2)	2(1)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
坂東信人・仮屋新一・木股文昭・中尾茂・及川純・渡辺秀文・鶴川元雄・藤田英輔・河合晃司・松島健・宮島力雄・奥田隆	2005	GPS観測による2000年7月14日三宅島火山噴火に伴う地殻変動	火山	50	173-182		2(2)			
上田英樹・山本英二・大久保正・村上亮・上野寛・宇平幸一	2003	2002年5月伊豆半島東部群発地震活動に伴った地殻変動の開口断層モデル	火山	48	471-477		2(2)	4(5)		
植木真人, 三浦 哲	2002	1998年岩手山周辺の火山・地震活動	地学雑誌	111	154-165		2(2)			
森俊哉、野津憲治、Hernandez P.A., Salazar J. M. L., Perez N.M., Virgili G., 下池洋一、岡田弘	2002	有珠火山山頂カルデラ内での土壌からのCO ₂ 放出量の連続測定	火山	47	339-345		2(2)	1(2)	2(4)	
西村 卓也	2002	伊東沖と岩手山における火山性力源による地震のトリガリング	地学雑誌	111	166-174		2(2)			
村上 亮	2005	GPS連続観測結果が示唆する浅間山のマグマ供給系	火山	50	347-361		2(2)	4(1)		1996年以降のGPS結果で見いだされる浅間山の山体膨張・収縮の繰り返し、火山活動の消長と関係することを指摘した。2004年噴火前の火山噴火予知連の検討においても膨張の開始が指摘されている。本論文では、地殻変動からマグマが入り込むダイク性のマグマ溜りが黒斑山の西方地下に存在し、噴火は注入時に発生するモデルを構築した。他の火山を含め中長期的噴火予知にGPS連続観測が極めて有用であることを実証した成果である。
村上 亮	2005	最近10年の地殻変動観測の進歩と火山学への貢献	火山	第50巻特別号	S27-S48		2(2)	1(1)	1(2)	
筒井智樹・松島 健・清水 洋	2004	雲仙火山の浅部構造に対する擬似反射記録法の適用の試み	火山	49	143-151		2(2)	2(4)		
内田直希, 西村太志, 吉本和生, 中原恒, 佐藤春夫, 大竹政和, 田中聡, 浜口博之	2002	1998年岩手県内陸北部地震前後の地震波速度変化	地震, 第2輯	55	193-206		2(2)			
浜口博之	2003	第6次火山噴火予知計画で何がわかったか	火山	48	79-86		2(2)	2(1)		
木股文昭・メイラノ イルワン・深野寛太	2004	GPSにより観測された八丈島における地殻変動とそのダイク貫入モデルの推定(2002年8月13-22日)	火山	49	13-23		2(2)			2002年8月、八丈島で群発地震活動が観測された。GPSでは地殻変動も観測された八丈富士の北西側にダイク貫入を想定すると観測された地殻変動が説明可能である。
鈴木由希・中田節也	2002	気泡組織・サイズ分布から見た有珠山2000年噴火でのマグマ上昇と発泡プロセス	火山	47	675-688		2(2)			有珠山2000年噴火の噴出物の組織からマグマの上昇過程を議論。
Kosuga, M. and Y. Senda	2004	Scattering characteristics beneath the Iwate Volcano, northeast Japan, estimated from array analyses of seismic waves from active sources	Proceedings of the International Workshop on Active Monitoring in the Solid Earth Geophysics		285-289		2(2)	2(4)		岩手山の東山麓での人工地震において観測された顕著な後続波は強い散乱によるものと解釈される。散乱が生じた領域は地震波速度の低速度域と概ね一致するが、その領域での減衰は強くない。そのため、岩手山の東側山体とその山麓部は、山体崩壊に伴う砕屑物中に古い山体の「硬い」構成物質が混在し、散乱減として働いているものと推定される。
Perez N.M., Salazar J.M.L., Hernandez P.A., Soriano T., Lopez D.L. and Notsu K.	2004	Diffuse CO ₂ and ²²² Rn degassing from San Salvador volcano, El Salvador, Central America.	GSA Special Paper	375	227-236		2(2)	2(5)		
Salazar J.M.L., Hernandez P.A., Perez N.M., Olmos R., Barahona F., Cartagena R., Soriano T., Lopez D.L., Sumino H. and Notsu K.	2004	Spatial and temporal variations of diffuse CO ₂ degassing at the Santa Ana-Izalco-Coatepeque volcanic complex, El Salvador, Central America	GSA Special Paper	375	135-146		2(2)	2(5)		
Srigutomo W. and Kagiya T.	2003	3-D TDEM modeling and its application in detecting magma and groundwater system in volcanic area	Proc. 2003 Annual Physics Seminar of Indonesia		90-91		2(2)			
Srigutomo, W., T. Kagiya, W. Kanda, H. Mune Kane, T. Hashimoto, Y. Tanaka, H. Utada and M. Utsugi	2006	Resistivity structure of Unzen Volcano derived from Time Domain Electromagnetic (TDEM) survey	Ann. Rep. FY 2005 Inst. Geotherm. Sci., Grad. Sch. Sci. Kyoto Univ.		29-31		2(2)			雲仙火山において行われた比抵抗構造調査の結果からコンダクタンス(電気伝導度の鉛直積分値)の分布図を作成した。その結果、島原半島西部から普賢岳にかけてのマグマの移動経路と推定される領域に高コンダクタンス領域が分布していることが明らかとなった。この結果は、この領域の地下においてマグマから揮発性成分が脱ガスしたことを示す証拠を考えられ、雲仙火山の噴火が非爆発的になった理由を考える上で重要な証拠を提示している。
田中和夫・三品正明・井上 純・長谷川雄久・本田 健・高山武夫・佐藤隆博・野村武志	2006	東北地方の活動的火山における重力異常	弘前大学理工学研究報告	8	7-24		2(2)			弘前大学が、これまでに行ってきた岩木山・岩手山・秋田駒ヶ岳・磐梯山における重力測定データとブーゲー異常図をまとめて掲載した。
村上亮	2006	伊豆東部火山群のマグマシステムの今後の観測の問題	地震予知連絡会会報	76	275-284		2(2)			最新のGPS連続観測結果や過去からの水準測量結果を総合的に解析して、伊豆東部単性火山群のマグマ供給系のモデルを提案した。また、現在の観測網の配置状況を評価し、今後の活動のモニタリング能力の高度化のために必要と考えられる改善点を提案した。
村上亮	2003	1986年噴火以降の伊豆大島の地殻変動 - 1986年噴火の余効過程と次の噴火に向けての準備過程 -	月刊地球 号外	39	96-101		2(2)	4(5)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
山本圭吾・大久保修平・古屋正人・新谷昌人・松本滋夫・高山鏡朗・石原和弘	2003	桜島火山における絶対重力測定(1998年~2002年)	京都大学防災研究所年報	46B	827-833		2(2)			
河野裕希・松島 健・清水 洋	2005	測地学データから推定された雲仙岳下における圧力源	九州大学大学院理学研究院研究報告(地球惑星科学)	22	29-39		2(2)			雲仙1990~95年噴火時から噴火後最近までの水準測量データを地形(標高)の補正を加えて統一的に解析することにより、四つのマグマ溜り(圧力源)の位置とそれらのマグマ溜りにおけるマグマ収支を推定した。その結果、地殻深部からのマグマ供給はコンスタントではなく、噴火終了後は深部の供給量も低下している可能性が高いことが示された。このことは、休止期間が長い火山の長期活動予測や準備過程を考える上で重要である。
鎌山恒臣・橋本武志・Wahyu Srigutomo・神田 径・田中良和・宇津木 充	2002	電磁気観測から推定される雲仙火山におけるマグマと水の相互作用	月刊地球	24	858-865		2(2)			
松島 健・河野裕希	2005	千々石カルデラと雲仙火山の活動	月刊地球	28	122-127		2(2)	3(2)		
松島 健・清水 洋・植平賢司・松尾のり道	2003	雲仙岳の深部マグマ溜まり	月刊地球	25	47-50		2(2)			
清水 洋	2003	マグマ供給系の構造と噴火機構のモデル化 地球物理観測からのアプローチ	火山	48	151-156		2(2)	2(1)		
清水 洋	2005	雲仙火山活動	日本応用地質学会九州支部会報「GET九州」	26	35-39		2(2)	3(2)		
清水 洋・松本 聡・植平賢司・松尾のり道・大西正純	2002	雲仙火山における火道探査実験	月刊地球	24	878-882		2(2)	2(1)		
西村 卓也・村上亮・小沢慎三郎・石本正芳・鷲谷威・矢来博司・多田堯・海津優・鶴川元雄	2002	三宅島2000年噴火前後の地殻変動と断層モデル	東京大学地震研究所彙報	77	55-65		2(2)	1(1)	1(2)	地殻変動データを駆使して2000年三宅島噴火及び神津島など周辺で発生した大規模な地殻活動のモデル化を達成した成果である。地殻変動データから、噴火時のマグマ移動や噴火後の脱ガス機構について議論し、火山性流体の移動が何処まで追えるかについての現時点の到達点を示す成果と位置付けられる。
大久保綾子・田中良和・宇津木 充・北田直人・清水 洋・松島 健	2004	雲仙火山における低高度高密度空中磁気探査	京都大学防災研究所年報	47 B	735-742		2(2)	1(2)		
中道治久	2006	富士山と南部フォッサマグナの地震活動と速度構造, 富士火山: 富士火山に関する最近の研究総括	山梨県環境科学研究所			印刷中	2(2)			高Vp/Vs領域があり、マグマの存在が示唆された。また、逆断層でスライスされたフィリピン海プレートが陸側のプレートに縮合している様子が鮮明にされた。
中道治久・富士山稠密地震観測グループ	2006	稠密地震観測による南部フォッサマグナの地震波速度構造	月刊地球			印刷中	2(2)			
田中良和・宇津木 充	2005	地磁気変化を利用した地熱の推移に関する研究(5) - 九重火山における高密度空中磁気観測について -	大分県温泉調査研究会報告	56	81-86		2(2)			測定点の位置を高精度に求めながら空中磁気探査を行うことで任意の場所における全磁力を計算する手法を開発し、九重山においてその手法を適用した。過去に行われた空中磁気探査の結果と比較することで、10nT程度の有意な地磁気変化を検出することに初めて成功した。
田中良和・橋本武志・北田直人・大久保綾子・宇津木 充・清水 洋・松島 健		雲仙火山における空中磁気測量について	平成14年度雲仙火山科学掘削成果報告書				2(2)	1(2)		
防災科学技術研究所	2005	浅間山噴火に伴う傾斜変化	火山噴火予知連絡会会報	89	50-54		2(2)			
防災科学技術研究所	2005	浅間山近傍の傾斜変化(2005年2月21日 - 23日)	火山噴火予知連絡会会報	90	30-31		2(2)			
防災科学技術研究所	2005	浅間山噴火に伴う傾斜変化(2005年2月21日 - 23日)	火山噴火予知連絡会会報	90	30-31		2(2)			
防災科学技術研究所・国土地理院	2004	2000年三宅島噴火活動に関連する地殻変動の変動源モデルの推定	火山噴火予知連絡会会報	87	28-34		2(2)	1(2)	2(1)	三宅島で観測されたGPS、傾斜変動、水準測量などのデータを総合して、1983年の噴火以降に地殻変動源として寄与した三宅島直下のマグマシステムの時間変化を解明した。
木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・Meilano Irwan・Dudy Darmawan・David Solim・太田雄策	2003	御嶽山群発地震域における精密水準測量による地殻上下変動(1999-2003年) - 屋敷野地区における隆起の上下変動 -	東濃地震科学研究所報告書	13	103-108		2(2)			御嶽山で実施していた水準測量を、四半世紀継続する群発地震の震源域まで延長した。その結果、5mmに満たないながらも、隆起が観測された。隆起域の広がりから圧力源は2-3kmと非常に浅いことが示唆される。
木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・Meilano Irwan・太田雄策	2002	御嶽山群発地震域における精密水準測量による地殻上下変動 1999-2002年	東濃地震科学研究所報告	10	69-75		2(2)			2002年に実施した水準測量から御嶽山東山麓で発生する群発地震の震源域で隆起の上下変動が検出された。隆起の広がりから地殻浅部に圧力源が推定された。
木股文昭・宮島力雄・村瀬雅之・太田雄策・柏木雅生・大園真子・仮屋新一・山室友生	2005	御嶽山群発地震域において精密水準測量より検出された地盤の隆起変動 2002年4月 - 2005年4月	東濃地震科学研究所報告	16	71-76		2(2)			御嶽山東山麓の群発地震域で水準測量から検出されていた隆起の上下変動が2002-2005年間には10mmを超えた。群発地震域では着実に隆起が継続していると考えられる。
木股文昭・村瀬雅之・宮島力雄・Dudy Darmawan・伊藤武男・高野和友・太田雄策・Irwan Meirano・Herri Anderson・David Solim・Fauzan Ibrahim・小山悦郎・辻 浩・高山鏡朗・内田和也・岡田 純	2004	御嶽山群発地震域において精密水準測量から検出された地盤の隆起変動 2002年4月-2004年4月	東濃地震科学研究所報告書	14	7-18		2(2)			2003年の水準測量で、御嶽山東山麓で隆起が検出された。しかし、変動が測量誤差とコンパチブルだった。しかし、2004年の測量でも同様な隆起が観測され、隆起が継続的に進行していることを示唆する結果となった。
野津憲治・森俊哉・鍵裕之・伊藤貴盛	2004	富士火山における野火ガス拡散放出の調査研究	月刊地球 / 号外	48	42-47		2(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Aizawa, K., Yoshimura, R., Oshiman, N.	2004	Splitting of the Philippine Sea Plate and a magma chamber beneath Mt. Fuji	Geophys. Res. Lett.	31	L09603, doi:10.1029/2004GL019477		2(3)			
Hasegawa, A	2004	Deep structure of northeastern Japan and its implications for shallow seismic and volcanic activity	Proceedings of the 7th SEGJ International Symposium		39-44		2(3)	2(2)	3(4)	
Hasegawa, A., and J. Nakajima	2004	Geophysical constraints on slab subduction and arc magmatism	AGU Geophys. Monograph	150	81-94		2(3)	2(2)	3(4)	
Holtz, F., Sato, H., Leis, J., Behrens, H. and Nakada, S.	2005	Experimental petrology of the 1991-1995 Unzen dacite, Japan. Part I: phase relations, phase composition and pre-eruptive conditions	J. Petrology	46	319-337		2(3)			雲仙普賢岳噴火の岩石学的実験結果から噴火前のマグマ混合についての研究。
Kaneko, T., Nakada, S., Yoshimoto, M., Fujii, T., Yasuda, A., Yoneda, M. and Aoyagi, M.	2005	Determination of burial age of the "Augustus's villa" (Italy).	Geochemical J.	39	573-578		2(3)			ベスビオ火山の噴火で罹災したローマ時代の建物を発掘調査結果から、当時の噴火過程を再現。
Nakada, S., Matsushima, T., Yoshimoto, M., Sugimoto, T., Kato, T., Watanabe, T., Chong, R., Camacho, J.T.	2005	Geological aspects of the 2003-04 eruption of Anatahan Volcano, Northern Mariana Islands	J. Volcanol. Geotherm. Res.	146	77-85		2(3)			アナタハン2003年以降の噴火の火山地質学的調査結果。
Nakajima J., and A. Hasegawa	2003	Tomographic imaging of seismic velocity structure in and around the Onikobe volcanic area, northeastern Japan: implications for fluid distribution	J. Volcanol. Geotherm. Res.	127	1-18		2(3)	2(2)	3(4)	
Nakajima, J., and A. Hasegawa	2003	Estimation of thermal structure in the mantle wedge of northeastern Japan from seismic attenuation data	Geophys. Res. Lett.	30	doi:10.1029/2003GL017185		2(3)	2(2)	3(4)	
Nakajima, J., and A. Hasegawa	2004	Shear-wave polarization anisotropy and subduction-induced flow in the mantle wedge of northeastern Japan	Earth Planet. Sci. Lett.	225	365-377		2(3)	2(2)	3(4)	
Nakajima, J., Y. Takei, and A. Hasegawa	2005	Quantitative analysis of the inclined low-velocity zone in the mantle wedge of northeastern Japan: A systematic change of melt-filled pore shapes with depth and its implications for melt migration	Earth Planet. Sci. Lett.	234	59-70		2(3)	2(2)	3(4)	
Nakamichi, H., Watanabe, H., Ohminato, T., Seismic Observation Group of Mount Fuji.	submitted	Three-dimensional velocity structure of Mount Fuji and the South Fossa Magna, central Japan	J. Geophys. Res.				2(3)			
Sato, H., Holtz, F., Behrens, H., Botcharnikov, R. and Nakada, S.	2005	Experimental petrology of the 1991-1995 Unzen dacite, Japan. Part II: Cl/OH partitioning between hornblende and melt and its implications for the origin of oscillatory zoning of hornblende phenocrysts	J. Petrology	46	339-354		2(3)			雲仙普賢岳噴火の岩石学的実験結果からマグマの上昇脱ガスについての研究。
Watanabe, T., Tabei, T., Kato, T., Nakada, S., Yoshimoto, M., Matsushima, T., Chong, R., Camacho, J.T.	2005	Geodetic constraints for the mechanism of Anatahan eruption of May 2003	J. Volcanol. Geotherm. Res.	146	226-240		2(3)			アナタハン2003年前後に伴った地殻変動観測の解析。
宇都浩三・中田節也・藤井敏嗣・星住英夫	2005	火山体の内部を探る：科学掘削の重要性	火山	50	S273-S288		2(3)			火山体掘削から分かる地質学的事象について解説。
弘瀬冬樹, 中村綾子, 中島淳一, 長谷川昭	2002	東北日本弧下のマグマ供給源の分布 - b値とS波速度から推定される島弧走向方向の変化 -	火山	47	475-480		2(3)	2(2)	3(4)	
立山英之・星住英夫・渡辺一徳	2002	雲仙, 野岳火山の層序と形成史	火山	47	739-749		2(3)			
Ishihara, K.	in press	Evaluation of eruption potential	Annuals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	49C			2(3)			火山災害の軽減における噴火ポテンシャルの意義、内容と評価に必要なデータ・知識について論じ、桜島を例として噴火ポテンシャル評価を行い、当面の20年に予想される4つの活動シナリオを示し、噴火にいたる過程で発現する現象、災害と概略の影響範囲を推定した。現時点で噴火ポテンシャル評価が可能な火山は20火山程度であり、他の火山では予期せぬ噴火が発生する可能性がある。
Nakada, S., Uto, K., Sakuma, S., Eichelberger, J.C. and Shimizu, H.	2005	Scientific results of conduit drilling in the Unzen Scientific Drilling Project (USDP)	Scientific Drilling	1	18-22		2(3)			雲仙火道掘削の地質学的成果（構造と岩石）。
Ueno, N. and Nakada, S.	2005	Variation of rock magnetic properties during the 1991-1995 eruption at Unzen, Japan	Jour. Toyo Univ., Natural Science	49	127-137		2(3)			雲仙普賢岳噴火の岩石磁気学的考察。噴火中の岩石磁気時間変化。
Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S.	2004	Multiple magma reservoirs for the 1707 eruption of Fuji volcano, Japan	Proc. Japan Acad. Ser. B	80	103-106		2(3)			
伊藤順一	2002	岩手火山における3.7-1.8kaの噴火活動史	月刊地球, 号外	39	29-37		2(3)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
宇都浩三・味喜大介・Hoang NGUYEN・周藤正史・福島大輔・石原和弘	2005	桜島火山マグマ化学組成の時間変化	京都大学防災研究所年報	48B	341-347		2(3)			
中田節也・佐久間澄夫・宇都浩三・清水洋	2005	雲仙火道掘削の科学的成果の概要	地熱技術	30	43-52		2(3)			雲仙火道掘削の地質学的成果（構造と岩石）。
長谷川昭	2004	東北地方の地震と火山 - 沈み込み帯における地震発生と火山生成のモデル -	理科教室	47	8-17		2(3)	2(2)	3(4)	
藤井敏嗣（編）	2004	富士火山の総合的研究	月刊地球号外	48	204		2(3)			
Ishido, T.	2004	Electrokinetic mechanism for the "W"-shaped self-potential on volcanoes	Geophys. Res. Lett.	31	doi:10.1029/2004GL020409		2(4)			
Kaneko, T., M.J.Wooster and S. Nakada	2002	Exogenous and endogenous growth of the Unzen lava dome examined by satellite infrared image analysis	J. Volcanol. Geotherm. Res.	115	151-160		2(4)			衛星写真（熱）から雲仙溶岩ドームの成長過程を議論。
Lee, C., Kim, Y.J., Tanimoto, H., Bobrowski, N., Platt, U., Mori, T., Yamamoto, K. and Hong, C.S.	2005	High ClO and ozone depletion observed in the plume of Sakurajima volcano, Japan.	Geophys. Res. Lett.	32	L21809		2(4)	2(5)		
Masayuki Fujita, Tadashi Ishikawa, Masashi Mochizuki, Mariko Sato, Shin-ichi Toyama, Masato Katayama, Koji Kawai, Yoshihiro Matsumoto, Tetsuichiro Yabuki, Akira Asada and Oscar L. Colombo	2006	GPS/Acoustic seafloor geodetic observation: method of data analysis and its application	Earth, Planet. Space	58	265-275		2(4)	1(1)		GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測について、線形最小自乗法に基づくインバージョンの手法による局位置解析ソフトウェアの開発などを行い、宮城県沖における太平洋プレート沈み込みの影響によるプレート内変動や2005年宮城県沖地震に伴う変位をとらえるなどの成果を上げた。
Matthews, J. P., H. Kamata, S. Okuyama, Y. Yusa, and H. Shimizu	2003	Surface height adjustments in pyroclastic-flow deposits observed at Unzen volcano by JERS-1 SAR interferometry	J. Volcanol. Geotherm. Res.	125	247-270		2(4)	3(3)		
Mori T., Sato M., Shimoike Y. and Notsu K	2002	High SiF ₄ /HF ratio detected in Satsuma-Iwojima volcano's plume by remote FT-IR observation	Earth Planet Space	54	249-256		2(4)			
Mori, T., Kazahaya, K., Oppenheimer, C., McGonigle, A.J.S., Tsanev, V., Oimos, R., Ohwada, M. and Shuto, T.	2006	Sulfur dioxide fluxes from the volcanoes of Hokkaido, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	158	235-243		2(4)	2(2)	3(1)	
Nakatsuka, T. and Okuma, S.	2006	Reduction of geomagnetic anomaly observations from helicopter surveys at varying elevations	Exploration Geophysics	37	121-128		2(4)			
Saito, G., Shinohara, H., Kazahaya, K.	2002	Successive sampling of fumarolic gases at Satsuma-Iwojima and Kuju volcanoes, southwest Japan: Evaluation of short-term variations and precision of the gas sampling and analytical techniques	Geochem. J.	36	1-20		2(4)			
Sato, M. and H. Hamaguchi	2006	Weak long-lived ground deformation related to Iwate volcanism revealed by Bayesian decomposition of strain, tilt and positioning data	J. Volcanol. Geotherm. Res.	155	244-262		2(4)	2(2)		1998年～2002年の5年間に岩手山で観測された微弱な地盤変動を検出するために、ベイズ理論を用いた解析法を開発して適用した。この方法は長期間の計器のドリフトや季節変化を取り除くのに有効である。解析の結果、1998年2月に山頂直下に貫入したマグマが、3-4月に西へ伸展し、9月まで継続すると同時に、西方に位置する球状圧力源が2000年にかけて膨張し、その後収縮したことを示した。圧力源はマグマの貫入によって励起された熱水溜まりと考えられる。
Shinohara, H.	2005	A New Technique to Estimate Volcanic Gas Composition: Plume Measurements with a Portable Multi-Sensor System	J. Volcanol. Geotherm. Res.	143	319-333		2(4)			
Takahashi, H., K. Kazahaya, H. Shinohara and T. Nakamura	2004	Application of radiocarbon to detect a deep source CO ₂ in soil air	Nucl. Inst. Meth. Phys. Res.	223-224C	483-488		2(4)	2(2)		
Tanaka, T., Hoshizumi, H., Iwasaki, Y. and Shibuya, H.	2004	Applications of paleomagnetism in the volcanic field: A case study in Unzen volcano, Japan	Earth Planets Space	56	635-647		2(4)			
Yamawaki, T., T. Nishimura, and H. Hamaguchi	2004	Temporal change of seismic structure around Iwate volcano inferred from waveform correlation analysis of similar earthquakes	Geophys. Res. Lett.	31	10.1029/2004GL021103		2(4)	2(2)		1995年～2002年に三陸沖のプレート境界に発生した相似地震のP波、S波波形の相互相関係数を用いて、岩手火山付近の地殻構造における時間変化を求めた。ほとんどの観測点では全期間を通じて高い相関が得られたのに対して、岩手山南西山腹に位置する2観測点においてのみ、1998年の火山活動に対応して相関係数が低下し、2000年以降回復する傾向が認められた。P波に比較してS波の相関係数の低下が大きいことから、剛性率が変化したと考えられる。
Yoshihiro Matsumoto, Masayuki Fujita, Tadashi Ishikawa, Masashi Mochizuki, Tetsuichiro Yabuki and Akira Asada	in press	Undersea co-seismic crustal movements associated with the 2005 Off Miyagi Prefecture Earthquake detected by GPS/Acoustic seafloor geodetic observation	Earth, Planet. Space				2(4)	1(1)		GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測により2005年宮城県沖の地震に伴う変位をとらえた。この観測により得られた変位は、矩形断層モデルによる計算値と調和的である。
西澤・石原和弘	2003	火山地域における震源計算の提案	火山	48	407-413		2(4)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
實測哲也・鶴川元雄・藤田英輔・岡田義光・宮坂聡・赤池勝明・松岡滋治	2002	航空機搭載型多波長走査計による有珠山2000年噴火の多時期観測	火山	47	297-323		2(4)	1(2)		2000年有珠山噴火の前後に主に火山専用空中赤外映像装置を用いて観測した可視・近赤外・温度画像を分析し、有珠山西部の新しい火口群や山頂部の温度変化、降灰の影響域の時間変化などを把握することができた。
浦井 稔	2004	Sulfur dioxide flux estimation from volcanoes using Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer; a case study of Miyakejima volcano, Japan	J. Volcanol. Geotherm. Res.	134	38730		2(4)			
浦井 稔, 町田晶一	2005	Discolored seawater detection using ASTER Reflectance Products	REMOTE SENSING OF ENVIRONMENT	99	95-104		2(4)			
金子隆之・M.J. ウースター	2002	衛星赤外画像による雲仙溶岩ドーム成長域・噴気域の同時熱観測：リモートセンシングによるガス放出・蓄積状況の特定	火山	47	449-459		2(4)			衛星写真（熱）から雲仙溶岩ドームの成長過程を議論。
篠原宏志	2005	火山ガス観測による噴火予知研究の現状と展望	火山	50	S167-S176		2(4)	2(1)		
照沼 利浩, 西田 顕郎, 天田 高白, 水山 高久, 佐藤 功, 浦井 稔	2005	Detection of traces of pyroclastic flows and lahars with satellite synthetic aperture radars	INTERNATIONAL JOURNAL OF REMOTE SENSING	26	1927-1942		2(4)			
森俊哉・野津憲治	2005	浅間山噴煙中の火山ガス化学組成の遠隔観測.	火山	29	567-574		2(4)	2(2)	2(3)	FT-IR分光放射計を用いて浅間山2004年噴火前後の火山ガス化学組成を遠隔測定した。
森俊哉・野津憲治	2005	浅間山噴煙中の火山ガス化学組成の遠隔観測.	火山	50	567-574		2(4)	2(2)	2(3)	FT-IR分光放射計を用いて浅間山2004年噴火前後の火山ガス化学組成を遠隔測定した。
大久保綾子, 田中良和, 鍵山恒臣, 宇津木充, 神田径	2006	ヘリボーン空中磁気探査から推定される雲仙西部地域の磁化強度分布	火山	51	印刷中		2(4)			
中塚 正・大熊茂雄	2005	スティンガー式ヘリコプター磁気探査システムの開発とその磁気センサーに対する機体磁気補償	物理探査	58	451-459		2(4)			
實測哲也	2003	航空機搭載MSS (VAM-90A) で計測した三宅島のSO ₂ ガス濃度分布	日本赤外線学会誌	13	12-13		2(4)	1(2)		火山専用空中赤外映像装置の赤外域バンドの一つを二酸化硫黄ガスの吸収帯と重なるように実験的に改造し、三宅島の火口から放出されている二酸化硫黄ガスの濃度分布を測定することに成功した。2回の実験観測で推定された二酸化硫黄ガス放出量は、10,000～28,000ton/day (2001年12月17日) と2,000～6,000ton/day (2003年1月17日) であった。
Mori, T., Ishihara, K., Hirabayashi, J., Kazahaya, K., And Mori, T.	2004	SO ₂ gas monitoring by DOAS at Sakurajima and Suwanosejima volcanoes	Annuals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	47C	157-162		2(4)	2(1)		
Okubo, A., W. Kanda, K. Ishihara	2006	Numerical Simulation of Volcanomagnetic Effects due to Hydrothermal Activity	京都大学防災研究所年報	49C	印刷中		2(4)			
Takagi, A.	2004	A geodetic study of the magma supply system at Izu-Oshima Volcano by using high-density GPS observation network. Doctoral thesis	九州大学博士論文		112		2(4)			伊豆大島における稠密なGPS繰り返し観測によって、噴火準備期の伊豆大島の地下のマグマ供給系を推察した。伊豆大島における地殻変動は、地下深部の増圧源及び三原山直下西部の収縮源に加え、北北西-南南東方向の板状圧力源によって説明できる。
神田径 藤井郁子	2003	カルマンフィルターによる火山性磁場変動検出の試み	京都大学防災研究所年報	46 B	797-803		2(4)	1(1)		
坂井孝行, 山本哲也, 福井敬一, 高木朗充, 藤原健治, 中禮正明	投稿中	深さに比して相対的に大きな半径を有する球圧力源による地表面変位	気象研究所研究報告	56			2(4)			
坂井孝行, 山本哲也, 福井敬一, 高木朗充, 中禮正明, 藤原健治	受理 (2006年11月)	有限要素法による火山性地殻変動の計算精度の確立 - 茂木・山川モデルの再現 -	気象研究所研究報告	56			2(4)			有限要素法による地殻変動計算手法を、茂木・山川モデルに適用して、モデル領域の大きさや境界条件がもたらす影響を見積り、火山性地殻変動に適用する手法を確立した。
藤井郁子	in press	時間変化する地磁気成分の解析について	CA研究会論文集				2(4)	1(1)		
藤田雅之	2006	GPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測～海上保安庁の取り組み(レビュー)～	海洋情報部研究報告	42	1-14		2(4)	1(1)		海上保安庁のGPS/音響測距結合方式による海底地殻変動観測の取り組みについて、2000年以降の進捗状況を、特にデータ解析手法の開発及び観測成果に重点を置きまとめた。観測精度については、それぞれの要素技術の改良により数cmの海底局位置決定精度が達成されている。また、観測結果については宮城県沖における太平洋プレート沈み込みの影響によるプレート内変動などがとらえられている。
山本哲也, 高木朗充, 福井敬一, 大和田毅	投稿中 (要現状確認)	安達太良山の火山活動の総合的観測と推定される熱水活動	気象研究所研究報告	56			2(4)			安達太良山の火山活動の活発化及び低下の過程を、地磁気・GPS・重力・自然電位観測によってとらえ、熱水シミュレーションと組み合わせで解析した。
伊藤順一	2006	桜島大正噴火に伴う地下水異常	地下水技術	48	1-8		2(4)			
坂井孝行, 宮村淳一	2005	平成15年(2003年)十勝沖地震に伴い北海道内の火山観測用空振計で観測された超低周波音	地震時報	68	105-120		2(4)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
山崎明、白土正明、大和田毅、徳本哲男、源泰拓	2003	落雷に伴う磁場の異常変化に関する調査---- 草津白根山での観測例 -	CA研究会論文集		91-97		2(4)			
神田 径、藤井郁子	2003	カルマンフィルターによる火山性磁場変動検出の試み	京都大学防災研究所年報	46B	797-803		2(4)			
神田径、藤井郁子	2003	火山性磁場変動解析ツールの開発 (II)全磁力データへの応用	CA研究会論文集		108-117		2(4)	1(1)		
大久保綾子、神田径、石原和弘	2006	熱水流動を考慮した火山体磁化構造時間変化モデル	CA研究会2006年論文集		印刷中		2(4)			
藤井郁子	2004	確率差分法を用いた火山性全磁力変動の抽出方法	地磁気観測所テクニカルレポート	2	1-17		2(4)	1(1)		地磁気観測値から火山性の長周期変動を抽出するため、確率差分法を用いて超高層や外核起源の広域の変動を除去する手法を開発した。係数の最適化はAICにより客観的に行う。従来の単純差より、火山性以外の変動を有意に減らすことができた。前処理、後処理を含むプログラム群を作成し一連の作業を自動化して、三宅島の全磁力毎分値に対して新手法の適用を開始し、阿蘇山、草津白根山など、他の火山データにも順次適用を広げた。
藤井郁子、神田径	2003	火山性磁場変動解析ツールの開発 (I)スキーム	CA研究会論文集		98-107		2(4)	1(1)		
防災科学技術研究所	2002	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	81	50-53		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2003	航空機搭載MSSによる三宅島のSO2ガス濃度分布の定量	火山噴火予知連絡会会報	82	79-80		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2003	干渉SARを用いた伊豆鳥島の地殻変動の解析	火山噴火予知連絡会会報	83	83-84		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2003	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	85	58-60		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2003	航空機搭載MSSによる三宅島のSO2ガス濃度分布の定量	火山噴火予知連絡会会報	85	61-62		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2005	火山専用空中赤外映像装置による浅間山の山体表面温度観測結果(2004年10月7日、10月22日観測結果)	火山噴火予知連絡会会報	89	55-58		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所	2005	干渉SARによる浅間山の地殻変動解析	火山噴火予知連絡会会報	90	37-38		2(4)	1(2)		
防災科学技術研究所・国土地理院	2005	衛星搭載型合成開口レーダから得られた2004年浅間山噴火に伴う火口底変化	火山噴火予知連絡会会報	90	32-36		2(4)	1(2)		浅間山の火口底の変動をRADARSAT SAR画像に現れる火口壁の影の変化から推定する手法を開発し、噴火後の2004年9月7日から2004年10月1日の間に火口底が約50m上昇していたことや、その後の火口底の地形変化を明らかにした。
防災科学技術研究所・国土地理院	2005	衛星合成開口レーダ画像から検出された浅間山火口底の上昇	火山噴火予知連絡会会報	89	47-49		2(4)	1(2)		
Hurst, A. W., P.C. Rickerby, B. J. Scott, T. Hashimoto,	2004	Magnetic field changes on White Island, New Zealand, and the value of magnetic changes for eruption forecasting	J.V.G.R	136	53-70		2(5)	1(2)	2(2)	
Nakada, S., T. Matsushima, M. Yoshimoto, T. Sugimoto, T. Kato, T. Watanabe, R. Chong, and J. Camacho	2005	Geological aspects of the 2003-2004 eruption of Anatahan Volcano, Northern Mariana Islands,	Journal of Volcanology and Geothermal Research	146	226-240		2(5)	2(1)		
Okuma, S., Nakatsuka, T., Komazawa, M., Sugihara, M., Nakano, S., Furukawa, R. and Supper, R.	2006	Shallow subsurface structure of the Vulcano-Lipari volcanic complex, Italy, constrained by helicopter-borne aeromagnetic surveys	Exploration Geophysics	37	129-138		2(5)			
Watanabe, T., T. Tabei, T. Matsushima, T. Kato, S. Nakada, M. Yoshimoto, R. Chong, and J. T. Camacho	2005	Geodetic constraints for the mechanism of Anatahan eruption of May 2003	Journal of Volcanology and Geothermal Research	146	77-85		2(5)	2(1)	2(2)	
斎藤英二・井口正人	2005	口永良部島におけるGPS連続観測による気象要素を加味した3時限変異検出	火山	51	21-30		2(5)	2(1)		
為栗健・井口正人・Triastuty, H., Mulyana, I., Hendrasto, M., Wirakusumah, A. D.	2003	インドネシア・スメル火山における小規模爆発に伴う地震および空気振動観測, , 第46号 B, 609-616 .	京都大学防災研究所年報	46B	609-616		2(5)			
井口正人	2003	国際共同研究の推進	火山	48	169 - 172		2(5)			
井口正人	2006	インドネシア, 東部ジャワ, スメル火山およびブロモ火山の噴火活動	火山	50	267-268		2(5)			
小林哲夫・M. Nuguraha Kartadinata・井口正人	2004	インドネシア, ババンダヤン火山の2002年噴火	火山	49	41 - 43		2(5)			
浜口博之	2003	ニイラゴンゴ火山の2002年噴火と災害	火山	48	191-193		2(5)	2(1)		
高橋浩晃・岡崎紀俊・石丸 聡・森 濟・松島 健・渡辺篤志・三浦 哲・中尾 茂・加藤照之・木股文昭・笠原 稔	2002	2周波GPS受信機による2000年有珠山噴火前後の地殻変動観測	火山	47	161-167		3(1)			2000年3月の有珠山噴火時に実施していたGPS観測から、噴火前後の地殻変動を詳細に検出し、貫入したマグマの上昇過程を明らかにする。
気象庁	2002	火山噴火予知連絡会会報(第77号-第81号)					3(1)			
気象庁	2003	火山噴火予知連絡会会報(第82号-第85号)					3(1)			
気象庁	2004	火山噴火予知連絡会会報(第86号-第88号)					3(1)			
気象庁	2005	火山噴火予知連絡会会報(第89号-第90号)					3(1)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
気象庁	2006	火山噴火予知連絡会会報(第91号-第92号)					3(1)			
山里平	2003	火山活動の監視と社会への情報伝達	火山	48	115-119		3(2)			
山里平、大賀昌一、大工豊、舟崎淳、松島正哉、内藤宏人、菅野智之	2004	気象庁による火山活動度レベルの公表	火山	49	217-222		3(2)			
林豊、山里平、新井伸夫	2004	地方自治体と報道機関の視点による火山情報の問題点	災害情報	2号	62-70		3(2)			
Fukushima, D. and Ishihara, K.	2005	Volcanic disaster prevention and community development-How to convert the volcano into a museum-	Annals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	48C	167-171		3(2)			地域をまるごと博物館と考えるエコミュージアムのコンセプトを桜島で適用・実践した。成人及び児童生徒に対する桜島の歴史、文化、産業、各種防災施設等の見学、巡検、体験学習や展示会等を繰り返し、アンケート調査を行った。その結果、このコンセプトは防災教育を持続的に行う社会教育システムの一つとして機能することが分かった。
Fukushima, D. and Ishihara, K.	2004	Practical Research on Educational Dissemination for Volcanic Disaster Prevention: A case Study on the Ecomuseum Concept	Annals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	47C	163-169		3(2)			
Ishihara, K., Iguchi, M., Miki, D., Yamamoto, K., Kanda, W., Tameguri, T., Fukushima, D., Mori, T., Oshima, H., Hirabayashi, J., Nogami, K, and Sudo, Y.	2004	Study on the evaluation method of volcanic activity and the improvement of volcanic information: preliminary report	Annals, Disat. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	47C	77-82		3(2)	3(3)		
岡田 弘	2003	一研究者の立場から見た噴火予知研究と社会との関係, 火山, 48, 137-140	火山	48	137-140		3(2)			
岡田 弘	2003	コミュニティ支援科学としての噴火予知・地震予知	月刊地球・号外	46	101-106		3(2)			
渡辺秀文	2005	伊豆大島火山のハザードマップ	月刊地球	27	353-355		3(2)			
渡辺秀文	2005	三宅島火山のハザードマップ	月刊地球	27	356-358		3(2)			
山里平	2005	火山情報はどのように発表されるか	土木学会誌叢書5 噴火に備えて 富士山噴火はいつ		50-56		3(2)			
山里平、林豊、白土正明、新井伸夫、工藤泰子	2004	気象庁の火山情報の今後～富士山における火山情報はどうかあるべきか	月刊地球	号外48号	199-204		3(2)			
Houlie N., P. Briole, A. Nercessian, M. Murakami	2005	Sounding the plume of the 18 August 2000 eruption of Miyakejima volcano (Japan) using GPS	Geophys. Res. Lett		doi:10.1029/2004GL021728		3(3)			三宅島2000年噴火において、火口からの立ち上る噴煙中をGPS電波が通過する際に受ける電波遅延効果を測定し、噴煙の温度を推定する新しい手法を開発した。
Houlie, N., P. Briole, A. Nercessian, M. Murakami	2005	Volcanic Plume Above Mount St. Helens Detected with GPS	Eos Trans		277, 10.1029/2005E0300001		3(3)			
笹原 昇	2005	日本周辺海域火山データベース	火山	50	497-500		3(3)			日本周辺海域の火山島・海底火山に関する資料を一元的に取りまとめ、噴火様式の予測のための海域火山データベースを構築し、公開した。
飛田幹男	2003	合成開口レーダー干渉法の高度化と地殻変動解析への応用	測地学会誌	49	1-23		3(3)			
佐藤 浩	2004	火山活動終了後の雲仙普賢岳・溶岩ドーム周辺の地形変化	地形	25	1-22		3(3)			
佐藤 浩、関口辰夫、織茂 郁、中島 保	2004	現地測量の成果を用いた航空レーザ測量DTMの高さ方向の精度検証	写真測量とリモートセンシング	43(4)	13-21		3(3)	3(3)		
佐藤 浩、中島達也、福住真仁、上妻由拓	2004	火山活動終了後の雲仙普賢岳・水無川流域におけるガリの一次元河床高変動計算	地形	26	259-280		3(3)	3(3)		
山里平	2004	活火山の分類(ランク分け)と火山情報への火山活動度レベルの導入	土木学会誌	89	40-41		3(3)	3(2)		
小澤拓、宗包浩志、矢来博司、村上亮	2003	JERS-1の干渉SARにより検出された霧島火山群・硫黄山周辺の局所的な地殻変動	火山	48	507-512		3(3)	4(5)		
神谷 泉	2006	ALOS PRISMからのDEM及び正射画像作成プログラムの開発と事前検証	写真測量とリモートセンシング誌	16	76-86		3(3)	3(4)		
大熊茂雄・中塚 正・高倉伸一・森尻理恵	2002	有珠火山地域における空中物理探査 - 有珠2000年噴火に関連して -	火山	47	533-546		3(3)			
中野 俊・星住 英夫	2005	活火山の地質図整備	火山	50	特別号, S219-S231		3(3)			
中禮正明	2002	東北日本における火山噴火および内陸地震(M>=6.2)と三陸沖の巨大地震(M8クラス)との時間的関連性について	地学雑誌	111	175-184		3(3)			
林 豊	2003	大正三年桜島噴火に先立って発生した地震の規模の推定	歴史地震	19	101-107		3(3)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
林 豊・小山真人	2002	宝永四年富士山噴火に先立って発生した地震の規模の推定	歴史地震	18	127-132		3(3)			
飯田洋、渡辺信之、佐藤潤、小荒井衛	2002	高分解能SARを利用した災害状況把握	国土地理院時報	99	49-56		3(3)			
大島弘光	2006	北海道のカルデラ-カルデラの重力異常-	月刊地球	28	103-109		3(3)			
大谷康夫・土出昌一・芝田厚・加藤茂・岩淵義郎	2004	日本周辺海域火山通覧(第3版)	海洋情報部研究報告	40	1-61		3(3)			海上保安庁でこれまでに実施した火山が存在する海域での調査結果を取りまとめたもので、山体の形状や位置についての概要、測量成果の概要などについて5年ごとに取りまとめ報告したもの。
神谷 泉	2005	ALOS PRISMの正射画像作成プログラムの開発	国土地理院時報	108	57-63		3(3)			
川島 悟、佐藤宗一郎、岩橋純子、中田外司、杉山正憲、小西博美、市川清次、朝比奈俊廣	2004	火山土地条件図「富士山」について	国土地理院時報	104	61-74		3(3)			
気象庁編	2005	日本活火山総覧(第3版)			635		3(3)			日本の108活火山について、場所、活動度ランク、火山の概要、活動履歴、参考文献、地図及びハザードマップの情報、記録に残る活動、地形図、観測網、火山活動データなどを記載した活火山カタログ。
小荒井衛、佐藤潤、野口真弓、飯田洋、雪下勝典、小島秀基、深澤宣代、小林大介、菅雄三	2004	高分解能衛星(EROS-A1)画像による空間データの取得に関する研究	国土地理院時報	104	35-41		3(3)			
国土地理院	2004	火山土地条件調査報告書「富士山地区」	国土地理院技術資料		D・2 N o . 4 8	39	3(3)			
国土地理院	2006	火山土地条件調査報告書「伊豆大島地区」	国土地理院技術資料		D・2 N o . 4 9	42	3(3)			
坂部真一、石浜佐栄子	2002	高分解能衛星データの災害時利用に関する調査・研究2	国土地理院時報	99	57-66		3(3)			
笹原 昇	2004	山体崩壊による津波シミュレーション -1792年眉山-	海洋情報部研究報告	40	63-71		3(3)			普賢岳の過去の活動に関して、山体崩壊が起こり海域に達したため津波が発生した事実を元に、海域の水深データ及び眉山の過去の地形データからシミュレーションし、津波がどのように伝搬したか検証した報告。
橋本武志	2006	ロングバレー・カルデラ 地殻活動の現在-	月刊地球	28	132-139		3(3)			
長谷川裕之、佐藤浩、岩橋純子、吉田幸子	2004	三宅島と雲仙普賢岳における地形変化について	国土地理院時報	105	83-95		3(3)	3(3)		
長谷川裕之、佐藤浩、岩橋純子、吉田幸子	2004	三宅島・陥没カルデラと雲仙普賢岳・水無川流域における地形変化について	国土地理院時報	105	83-95		3(3)	3(3)		
伊藤順一・土井宣夫	2005	岩手火山地質図(1:25,000地質図)	産業技術総合研究所地質調査総合センター、火山地質図	13			3(3)			
伊藤順一・土井宣夫・星住英夫・工藤崇・岸本清行	2006	岩手火山地質データベース	産業技術総合研究所地質調査総合センター、数値地質図	V-1	CD-ROM		3(3)			
佐藤 浩、関口辰夫	2004	Landslide susceptibility mapping by using DTM from airborne LIDAR in the Kuchisakamoto area, central Japan	国土地理院報告	52	in press		3(3)			
山里平	2005	活火山の分類と火山活動度レベルの導入	土木学会誌叢書5 噴火に備えて 富士山噴火はいつ		138-145		3(3)	3(2)		
神谷 泉	2005	ALOS PRISM画像の評定プログラムの作成とシミュレーションデータを用いたその検証	応用測量論文集	16	76-86		3(3)			
川辺禎久・阪口圭一	2005	5万分の1地質図幅「開聞岳」	産業技術総合研究所地質調査総合センター、地域地質報告(5万分の1地質図)	100			3(3)			
川辺禎久・津久井雅志・新堀賢志	2006	三宅島火山地質データベース	産業技術総合研究所地質調査総合センター、数値地質図	V-2	CD-ROM		3(3)			
大熊茂雄・中塚 正・森尻理恵・牧野雅彦	2003	有珠火山地域高分解能空中磁気異常図	産業技術総合研究所地質調査総合センター、空中磁気図	41			3(3)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
大熊茂雄・牧野雅彦・中塚 正	2005	浅間火山地域高分解能空中磁気異常図	産業技術総合研究所地質調査総合センター, 空中磁気図	43			3(3)			
大島弘光・青山 裕・筒井智樹・西村太志・田中 聡・藤田英輔・熊谷博之・中道治久・及川 純・大湊隆雄・小林知勝・武尾 実・鬼沢真也・高木憲朗・中野 優・井口正人・為栗 健・須藤靖明・森 健彦・馬越孝道・清水 洋・八木原 寛	2004	日本の火山性地震・微動のデータベース	日本の火山性地震・微動のデータベース		649		3(3)			
津久井雅志・川辺禎久・新堀賢志	2005	三宅島火山地質図	産業技術総合研究所地質調査総合センター, 火山地質図	12			3(3)			
安井真也・高橋正樹・阪上雅之・日本大学浅間火山2004年噴火調査研究グループ	2005	浅間前掛火山のブルカノ式噴火の噴出物の岩石組織の多様性- 天仁噴火から2004年噴火まで -	火山	50	501-517		4(1)			
吉本充宏・嶋野岳人・中田節也・小山悦郎・辻 浩・飯田晃子・黒川 将・岡山悠子・野中美雪・金子隆之・星住英夫・石塚吉浩・古川竜太・野上健治・鬼沢真也・新堀賢志・杉本 健・長井雅史	2005	浅間山2004年噴火の噴出物の特徴と降灰量の見積もり	火山	50	519-533		4(1)			
鎌山恒臣・小山悦郎	2005	浅間火山2004年噴火に関連した噴煙の時間変動	火山	51	75-89		4(1)			
高木朗充・福井敬一・藤原健治・上田義浩・飯島 聖・山本哲也・坂井孝行・菅野智之・瀧山弘明	2005	地殻変動から推定される2004年浅間山噴火前後の浅部マグマ供給系	火山	50	363-375		4(1)			
三宅康幸・高橋 康・津金達郎・牧野州明・角前壽一・西来邦章・福井高士・信州大学浅間火山04年噴火調査グループ	2005	浅間火山2004年9月噴火の本質噴出物について	火山	50	333-346		4(1)			
山本真紀・武尾 実・大湊隆雄・及川純・青木陽介・植田寛子・中村 祥・辻浩・小山悦郎・長田 昇・ト部 卓	2005	2004年浅間山噴火に先行する特異な長周期地震活動	火山	50	393-400		4(1)			
山里 平・大賀昌一・大工 豊・舟崎淳・松島正哉・内藤宏人・菅野智之	2004	気象庁による火山活動度レベルの公表	火山	49	217-222		4(1)			
寺田暁彦・井田喜明・飯島 聖・吉本充宏・嶋野岳人	2005	映像を用いた火山噴煙の運動解析と火山灰噴出量の推定- 浅間火山で2004年9月15-18日に頻発した小噴火 -	火山	50	555-565		4(1)			
寺田暁彦・嶋野岳人・飯島 聖・及川純	2005	噴煙映像を用いた火山灰噴出量の推定- 浅間火山2003年2月6日噴火の噴煙解析	火山	51	183-194		4(1)			
植木真人・大久保修平・大島弘光・前川徳光・孫 文科・松本滋夫・小山悦郎	2005	浅間山2004年9月1日噴火前後の重力変化	火山	50	377-386		4(1)			
西村太志・内田 東	2005	2004年浅間山で発生した爆発地震のシングルフォースモデルによる解析	火山	50	387-391		4(1)			
青木陽介・渡辺秀文・小山悦郎・及川純・森田裕一	2005	2004-2005年浅間山火山活動に伴う地殻変動	火山	50	575-584		4(1)			
村上 亮	2005	最近10年の地殻変動観測の進歩と火山学への貢献	火山	50周年記念特集号	S27-S47		4(1)			
村上亮	2005	GPS連続観測結果が示唆する浅間火山のマグマ供給系	火山	50	347-361		4(1)			
大木章一・村上 亮・渡辺信之・浦部ぼくろう・宮脇正典	2005	航空機搭載型合成開口レーダ (SAR) 観測による浅間火山2004年噴火に伴う火口クレーター内の地形変化	火山	50	401-410		4(1)			
大野希一・山川修治・大石雅之・高橋康・上野龍之・井田貴史	2005	凝集粒子を用いた噴煙高度の推定- 浅間火山2004年9月23日噴火に伴う降下火砕物の堆積様式 -	火山	50	535-554		4(1)			
中田節也・吉本充宏・小山悦郎・辻浩・ト部 卓	2005	浅間山2004年噴火と過去の噴火との比較による活動評価	火山	50	303-313		4(1)			
中禮正明・瀧山弘明	2005	2004年浅間山噴火活動に伴う傾斜変動について	火山	51	91-101		4(1)			
津金達郎・牧野州明・三宅康幸・高橋康	2005	浅間火山2004年噴火噴出物の鉱物組成分布とマグマの結晶化過程	火山	51	49-61		4(1)			
嶋野岳人・飯田晃子・吉本充宏・安田敦・中田節也	2005	浅間火山2004年噴火噴出物の岩石学的検討	火山	50	315-332		4(1)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
防災科学技術研究所・国土地理院	2005	衛星合成開口レーダ画像から検出された浅間山火口底の上昇	火山噴火予知連絡会会報	89	47-49		4(1)			
気象庁地震火山部火山課・軽井沢測候所	2004	浅間山の火山活動 - 2004年噴火の概要 -	第41回自然災害科学総合シンポジウム報告書		iii1-9		4(1)			
吉本充宏・小川悦郎・平林順一・中田節也	2005	浅間山2004年噴火(口絵解説)	火山	50	417-420		4(1)			
千葉茂樹・山川修治・中山裕則・長井大輔・久保田郁夫・竹本弘幸・遠藤邦彦	2006	2004年・2005年、浅間火山の噴火により遠隔地で観察された噴煙	日本文理自然科学研紀要	41	印刷中		4(1)			
中田節也・浅間山2004年噴火総合観測班	2004	浅間山2004年噴火の緊急観測調査	第41回自然災害科学総合シンポジウム報告書		iii10-21		4(1)			
中田節也・浅間山2004年噴火総合観測班	2005	2004年浅間山火山の噴火に関する総合的調査研究	第42回自然災害科学総合シンポジウム報告書		21-31		4(1)			
防災科学技術研究所	2003	火山専用空中赤外映像装置による浅間山の山体表面温度観測結果(2002年8月29日)	火山噴火予知連絡会会報	83	32-34		4(1)			
防災科学技術研究所	2004	火山専用空中赤外映像装置による浅間山の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	86	31-32		4(1)			
防災科学技術研究所	2005	浅間山噴火に伴う傾斜変化	火山噴火予知連絡会会報	89	50-54		4(1)			
防災科学技術研究所	2005	火山専用空中赤外映像装置による浅間山の山体表面温度観測結果(2004年10月7日、10月22日観測結果)	火山噴火予知連絡会会報	89	55-58		4(1)			
防災科学技術研究所	2005	浅間山近傍の傾斜変化(2005年2月21日-23日)	火山噴火予知連絡会会報	90	30-31		4(1)			
防災科学技術研究所	2005	干渉SARによる浅間山の地殻変動解析	火山噴火予知連絡会会報	90	37-38		4(1)			
防災科学技術研究所・国土地理院	2005	衛星搭載型合成開口レーダから得られた2004年浅間山噴火に伴う火口底変化	火山噴火予知連絡会会報	90	32-36		4(1)			
Amma-Miyasaka, M., Nakagawa, M. and Nakada, S.	2005	Magma plumbing system of the 2000 eruption of Miyakejima Volcano, Japan	Bull. Volcanol.	67	254-267		4(2)			
Fujita, E, Ukawa, M and Yamamoto, E.	2004	Subsurface cyclic magma sill expansions in the 2000 Miyakejima volcano eruption: Possibility of two-phase flow oscillation	Journal of Geophysical Research-Solid Earth	109	B04205-10.1029		4(2)			
Fujita, E, Ukawa, M and Yamamoto, E., Okada, Y.	2002	Cyclic jerky opening of magma sheet and caldera formation during the 2000 Miyakejima volcano eruption	Geophysical Research Letters	29	10,1029-10,1032		4(2)			
Furuya, M., Okubo, S., Sun, W., Tanaka, Y., Oikawa, J., Watanabe, H. and Maekawa, T.	2003	Spatiotemporal gravity changes at Miyakejima Volcano, Japan: caldera collapse, explosive eruptions and magma movement	J. Geophys. Res.	108-B410	1029/2002JB001989		4(2)			
Furuya, M., Okubo, S., Kimata, F., Miyajima, R., Meilano, I., Sun, W.	2003	Magma budget of the magma flow in 2000 volcano-seismic activity at Izu-Island, Japan	Earth Planets Space	55	375-385		4(2)			
Geshi, N., Shimano, T., Chiba, T. Nakada, S.	2002	Caldera collapse during the 2000 eruption of Miyakejima volcano, Japan.	Bull. Volcanol.	64	55-68		4(2)			
Irwan, M., Kimata, F., Fujii, N., Nakao, S., Watanabe, H., Sakai, S., Ukawa, M., Fujita, E., Kawai, K.	2003	Rapid ground deformation of the Miyakejima Volcano 26-27 June 2000 detected by kinematic GPS analysis	Earth Planets Space	55	e13-16		4(2)			
Kaneko, T., Yasuda, A., Shimano, T., Nakada, S., Fujii, T., Kanazawa, T., Nishizawa, A., Matsumoto, Y.	2005	Submarine flank eruption preceding caldera subsidence during the 2000 eruption of Miyakejima Volcano, Japan.	Bull. Volcanol.	67	243-253		4(2)			
Kazahaya, K., Shinohara, H., Uto, K., Odai, M., Nakahori, Y., Mori, H., Iino, H., Miyashita, M., Hiranbayashi, J.	2004	Gigantic SO2 emission from Miyakejima volcano, Japan, caused by caldera collapse.	Geology	32	425-428		4(2)	2(1)		
Matsushima N.	2005	H2O emission rate by the volcanic plume during the 2000 2002 Miyakejima volcanic activity	Geophys. Res. Lett.	32	L14307, doi:10.1029/2005GL023217		4(2)			
Nakada, S., Nagai, M., Kaneko, T., Nozawa, A., Suzuki-Kamata, K.	2005	Chronology and products of the 2000 eruption of Miyakejima Volcano.	Bull. Volcanol.	67	205-218		4(2)			
Naoe, H., J. Heizenberg, K. Okada, Y. Zaizen, K. Hayashi, T. Tateishi, Y. Igarashi, Y. Dokiya, K. Kinoshita	2003	Composition and size distribution of submicrometer aerosol particle observed on Mt. Fuji in the volcanic plumes from Miyakejima.	Atmospheric Environment	37	3047-3055		4(2)			
Nishizawa, A., T.Ono, Y.otani	2002	Seismicity and crustal structure related to the Miyake-jima volcanic activity in 2000.	Geophysical Research Letters	29	12,1-4		4(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Saito G., Uto K., Kazahaya K., Shinohara H., Kawanabe Y. and Satoh H.	2005	Petrological characteristics and volatile content of magma from the 2000 eruption of Miyakejima Volcano, Japan.	Bull. Volcanol.	67	268-280		4(2)			
Sasai, Y., Uyeshima, M., Zlotnicki, J., Utada, H., Kagiyama, T., Hashimoto, T., Takahashi, Y.	2002	Magnetic and electric field observations during the 2000 activity of Miyake-jima volcano, Central Japan.	Earth Planet. Sci. Lett.	203	769-777		4(2)			
Sasaki, H, N. Seino, J. Sato and M. Chiba	2002	Development of a dispersion model for volcanic gas over Miyake Island.	J. Meteor. Soc. of Japan	80	279-1288		4(2)			
Seino, N., H. Sasaki, J. Sato, M. Chiba	2004	High-resolution simulation of volcanic sulfur dioxide dispersion over the Miyake island.	Atmospheric Environment	38	7073-7081		4(2)			
Shinohara, H, K. Fukui, K. Kazahaya and G. Saito	2003	Degassing process of Miyakejima volcano: Implications of gas emission rate and melt inclusion data: in "Melt Inclusions in Volcanic Systems"	Advances in Volcanology Vol. 4, (eds. B. de Vivo and B. Bodnar), Elsevier		147-161		4(2)			
Shinohara, H, K. Kazahaya, G. Saito, K. Fukui and M. Odai	2003	Variation of CO2/SO2 ratio in volcanic plumes of Miyakejima: Stable degassing deduced from heliborne measurements	Geophys. Res. Lett.	30	No. 23, 10.1029/2002GL016105		4(2)			
Ueda, H., Fujita, E., Ukawa, M., Yamamoto, E., Irwan, M. and Kimata, F.	2005	Magma intrusion and discharge process at the initial stage of the 2000 activity of Miyakejima, central Japan, inferred from tilt and GPS data	Geophys. J. Int.	161	891-906		4(2)			
Uhira, K., T. Baba, M. Mori, H. Katayama, N. Hamada	2005	Earthquake swarms preceding the 2000 eruption of Miyakejima volcano, Japan.	Bull. Volcanol.	67	219-230		4(2)			
Urai M	2004	Sulfur dioxide flux estimation from volcanoes using Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer - a case study of Miyakejima volcano, Japan.	J. Volcanol. Geotherm. Res.	134 (1-2)	1-13		4(2)			
Yamaoka, K., Kawamura, M., Kimata, F., Fujii, N., Kudo, T.	2005	Dike intrusion associated with the 2000 eruption of Miyakejima volcano, Japan.	Bull. Volcanol.	67	231-242		4(2)			
下司信夫・嶋野岳人・長井雅史・中田節也	2002	三宅島火山2000年噴火のマグマ供給系	火山	47	419-434		4(2)			
高山博之, 吉田明夫	2002	2000年三宅島・神津島・新島付近の群発地震活動におけるb値の空間分布と時間変化	地震 2	55	295-300		4(2)			
坂東信人・飯屋新一・木股文昭・中尾茂・及川純・渡辺秀文・鶴川元雄・藤田英輔・河合晃司・松島健・宮島力雄・奥田隆	2005	GPS観測による2000年7月14日三宅島火山噴火に伴う地殻変動	火山	50	173-182		4(2)			
寺田暁彦・井田喜明・大湊隆雄	2003	Windowsマシンを用いた自動噴煙観測システムによる三宅島火山噴煙の観測	火山	48	445-459		4(2)			
新堀賢志・津久井雅志	2003	最近1万年間における三宅島火山のマグマ供給系の進化	火山	48	387-405		4(2)			
平林順一	2003	火山ガスと防災	質量学会誌	51	119-124		4(2)			
Seino, N., H. Sasaki, J. Sato and M. Chiba	2002	High-resolution Simulation of Flow and Dispersion of Volcanic SO2 over the Miyake Island.	Proceedings of the 1st meeting of the International Environmental Modeling and Software Society	Vol. 2	290-295		4(2)			
Wright, T.L., Sakai, S	2004	Interpretation of the Miyakejima 2000 eruption and dike emplacement using time animations of earthquakes.	Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo	79	1-16		4(2)			
安田 敦・中田節也・藤井敏嗣	2002	三宅島2000年噴火：噴出物中のガラス包有物組成の特徴と SO2大量放出の要因	東京大地震研彙報	77	43-54		4(2)			
気象庁	2005	三宅島 活動の概要	火山噴火予知連絡会最近10年のあゆみ - 火山噴火予知連絡会30周年特別号 -		162-171		4(2)			
気象庁・産総研・東工大	2004	三宅島における二酸化硫黄 (SO2) 放出量の観測 (2000年9月~2004年1月)	火山噴火予知連絡会会報	87	26-27		4(2)			
鍵山恒臣・小山悦郎・杉岡 学・笹井洋一・小山 茂・藤井郁子・瀧沢倫明・伊藤信和・碓井勇二	2002	最近の三宅島の全磁力変化	月刊地球	号外 39	115-120		4(2)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
寺田暁彦	2003	三宅島火山の噴煙運動解析	東京大地震研技術報告	9	10		4(2)			
寺田暁彦・井田喜明	2002	三宅島火山の噴煙高度変動と逆転層との関係	月刊地球	号外39	121-129		4(2)			
寺田暁彦・井田喜明	2003	三宅島火山の噴煙活動	南太平洋海域調査研究報告	37	40-49		4(2)			
西村卓也・村上亮・小沢慎三郎・石本正芳・鷲谷威・矢来博司・多田堯・海津優・鶴川元雄	2002	三宅島2000年噴火前後の地殻変動と変動源の推定 - 1983年噴火後から2001年5月までの収縮・膨張源 -	東京大学地震研究所彙報	77	55-65		4(2)			
千葉長・佐々木秀孝・清野直子・佐藤純次	2003	数値モデルを用いた三宅島火山ガスの地表濃度推定の試み	南太平洋海域調査研究報告	37	76-83		4(2)			
村上亮	2002	三宅島の地下で何が起きているのか? - 降下ピストンの強制冷却による三宅島の脱ガスモデル -	月刊地球	25	91-96		4(2)			
直江寛明, 岡田菊夫	2003	富士山頂で観測された三宅島火山ガス噴煙中のエアロゾル粒子	南太平洋海域調査研究報告	37	58-65		4(2)			
津久井雅志・新堀賢志・川辺禎久	2002	三宅島火山2000年陥没カルデラ	東京大地震研彙報	77	27-42		4(2)			
津久井雅志・川辺禎久・新堀賢志	2005	三宅島火山地質図	火山地質12				4(2)			
藤田英輔・鶴川元雄・山本英二	2002	三宅島火山活動の発端となった岩脈貫入のシナリオ	地震研究所彙報	77	67-75		4(2)			
風早康平・篠原宏志・尾台正信・堀博一・中堀康弘・飯野英樹・平林順一	2002	三宅島2000 - 2002活動におけるSO ₂ 放出量観測と問題点	月刊地球	号外39	130-135		4(2)			
防災科学技術研究所	2002	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	80	58-60		4(2)			
防災科学技術研究所	2002	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	81	50-53		4(2)			
防災科学技術研究所	2002	三宅島の地震活動・傾斜変動	火山噴火予知連絡会会報	81	57-62		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	航空機搭載MSSによる三宅島のSO ₂ ガス濃度分布の定量	火山噴火予知連絡会会報	82	79-80		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	三宅島の地震活動・傾斜変動	火山噴火予知連絡会会報	83	42-47		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	84	22-25		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	85	58-60		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	航空機搭載MSSによる三宅島のSO ₂ ガス濃度分布の定量	火山噴火予知連絡会会報	85	61-62		4(2)			
防災科学技術研究所	2003	三宅島の地震活動・傾斜変動	火山噴火予知連絡会会報	85	63-69		4(2)			
防災科学技術研究所	2004	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	86	72-73		4(2)			
防災科学技術研究所	2004	三宅島の地震活動・地殻変動	火山噴火予知連絡会会報	88	74-80		4(2)			
防災科学技術研究所	2005	火山専用空中赤外映像装置による三宅島の山体表面温度観測結果(2004年11月4日観測、速報画像判読結果)	火山噴火予知連絡会会報	90	104-107		4(2)			
防災科学技術研究所・国土地理院	2004	2000年三宅島噴火活動に関連する地殻変動の変動源モデルの推定	火山噴火予知連絡会会報	87	28-34		4(2)			
Hase H., Ishido, T., Takakura, S., Hashimoto, T., Sato, K., Tanaka, Y.	2003	Zeta potential measurement of volcanic rocks from Aso caldera.	Geophys. Res. Lett.	32	2210, doi:10.1029/2003GL018694		4(3)			
Hase, H., Hashimoto, T., Sakanaka, S., Kanda, W., Tanaka, Y.	2005	Hydrothermal system beneath Aso volcano as inferred from self-potential mapping and resistivity structure.	J. Volcano. Geotherm. Res.	143	259-277		4(3)	1(2)	2(2)	
Saito, T., Sakai, S., Iizawa, I., Suda, E., Umetani, K., Katsuya Kaneko, K., Furukawa, Y., Ohkura, T.	2004	A new technique of radiation thermometry using a consumer digital camcorder: Observations of red glow at Aso volcano, Japan.	Earth Planets Space	57	e5-e8		4(3)			
宮縁育夫・星住英夫・高田英樹・渡辺一徳・徐勝	2003	阿蘇火山における過去約9万年間の降下軽石堆積物	火山	48	195-214		4(3)			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
宮縁育夫・星住英夫・渡辺一徳	2004	阿蘇火山における更新世末期、AT火山灰以降のテフラ層序	火山	49	51-64		4(3)			
村上亮・小沢慎三郎	2004	GPS連続観測による日本列島上下地殻変動とその意義	地震	57	209-231		4(3)			
筒井智樹・須藤靖明・森 健彦・勝俣啓・田中 聡・及川 純・戸松稔貴・松尾のり道・松島 健・宮町宏樹・西 潔・藤原善明・平松秀行	2003	阿蘇火山中央火口丘山体の3次元地震波速度構造	火山	48	293-307		4(3)			
Hashimoto, T., Ikebe, S., Yoshikawa, S.	2002	Water level of the crater lake (Yudamari) of Nakadake, Aso Volcano.	Ann. Rep. FY 2002 Inst. Geotherm. Sci., Grad. Sch. Sci. Kyoto Univ.		11-12		4(3)			
Utsugi, M., Tanaka, Y., Kitada, N.	2003	High Density Helicopter-Borne Aeromagnetic Survey in Aso Volcano.	Ann. Rep. FY 2003 Inst. Geotherm. Sci., Grad. Sch. Sci. Kyoto Univ.		39-40		4(3)			
Yoshikawa, M., Sudo, Y., Londono, J.M., Masuda, H.	2002	Three-dimensional seismic velocity structure of the Hoho Volcanic Zone in central Kyushu, Japan.	Ann. Rep. FY 2002 Inst. Geotherm. Sci., Grad. Sch. Sci. Kyoto Univ.		38-39		4(3)			
気象庁地磁気観測所・福岡管区気象台	2005	阿蘇山における地磁気全磁力変化	火山噴火予知連絡会会報	90	115-117		4(3)			
吉川慎・須藤靖明	2004	阿蘇火山中岳第1火口の温度変化と火山活動	京大防災研年報	47B	803-807		4(3)			
九州大学地震火山観測研究センター	2004	阿蘇火山における地球化学的観測（～2004年1月）	火山噴火予知連絡会会報	87	83-87		4(3)			
九州大学地震火山観測研究センター	2004	阿蘇火山における地球化学的観測（～2004年5月）	火山噴火予知連絡会会報	88	102-105		4(3)			
九州大学地震火山観測研究センター	2005	阿蘇火山における地球化学的観測（～2004年10月）	火山噴火予知連絡会会報	89	89-90		4(3)			
国土地理院	2004	阿蘇山周辺の地殻変動	火山噴火予知連絡会会報	86	120-122		4(3)			
大沢信二・須藤靖明・馬渡秀夫・下田 玄・宇津木充・網田和宏・吉川 慎・山田 誠・岩倉一敏・恩田裕二	2003	阿蘇火山の火口湖「湯溜まり」の地球化学的性質	九大地熱・火山研究報告	12	62-65		4(3)			
長谷英彰・高倉伸一・石戸経士・佐藤佳子・橋本武志・田中良和・大倉敬宏	2002	阿蘇山における岩石のゼータ電位測定	京都大学防災研究所年報	45B	645-656		4(3)			
藤井郁子	2004	確率差分法を用いた火山性全磁力変動の抽出方法	地磁気観測所テクニカルレポート	2	1-17		4(3)			
Nogami, K., Iguchi, M., Ishihara, K., Hirabayashi, J. and Miki, D.	2006	Behavior of fluorine and chlorine in volcanic ash of Sakurajima volcano, Japan in the sequence of its eruptive activity	Earth, Planet. Space	58	595-600		4(4)			
Tameguri, T., Iguchi, M. and K. Ishihara.	2002	Mechanism of explosive eruptions from moment tensor analyses of explosion earthquakes at Sakurajima volcano	Japan Bull. Volcanol. Soc. Japan	47	197-215		4(4)			
Yokoo, A. and Ishihara, K	2007	Analysis of pressure waves observed in Sakurajima Eruption Movies	Earth, Planet. Space		in press		4(4)			
井口正人	2005	地球物理学的観測から見た火山爆発のダイナミクス 桜島を例として	火山	50	S139-S149		4(4)			
古川邦之・齋藤武士・鎌田浩毅・檀原徹・味喜大介・石原和弘	2003	沖小島ボーリングコア試料の岩相記載とFt年代 - 始良カルデラ南縁における先カルデラ活動史 -	火山	48	491-497		4(4)			
綿貫陽子・鎌田浩毅・味喜大介・石原和弘	2003	桜島火山大正噴火における二次溶岩流の分布と流出時期	火山	48	513-518		4(4)			
Kriswati, E. and Iguchi, M	2003	Eruptive Activity at Sakurajima Volcano Detected by GPS Network in South Kyushu Ann	Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ	46B	817-826		4(4)			
井口正人	2006	マグマの蓄積過程にある始良カルデラ	月刊地球	28	115-121		4(4)			
山本圭吾・大久保修平・古屋正人・新谷昌人・松本滋夫・高山鐵朗・石原和弘	2003	桜島火山における絶対重力測定(1998年～2002年)	京都大学防災研究所年報	46B	827-833		4(4)			
Kanda, W and S. Mori	2002	Self-potential anomaly of Satsuma-Iwojima Volcano	Earth, Planet. Space	54	281-287		4(5)			
Kawanabe, Y., Saito, G.	2002	Volcanic activity of the Satsuma-Iwojima area during the past 6500 years	Earth, Planet. Space	54	295-301		4(5)	2(2)	2(3)	

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Kazahaya, K., Shinohara, H., Saito, G.	2002	Degassing process of Satsuma-Iwojima volcano, Japan: Supply of volatile components from a deep magma chamber	Earth, Planet. Space	54	327-335		4(5)	2(2)	2(1)	
Matsushima, N., K. Kazahaya, G. Saito and H. Shinohara	2003	Mass and heat flux of volcanic gas discharging from the summit crater of Iwodake volcano, Satsuma-Iwojima, Japan during 1996-1999	J. Volcanol. Geotherm. Res.	126	285-301		4(5)	2(1)	2(2)	
Nogami, K., Hirabayashi, J., Nishimura, Y. and Suzuki, A.	2002	Nature and origin of volcanic ash in the 2000 eruption of Usu volcano, southeastern Hokkaido, Japan	EPS	54	993-998		4(5)	2		
Nogami, K., Iguchi, M., Ishihara, K., Hirabayashi, J. and Miki, D.	2006	Behavior of fluorine and chlorine in volcanic ash of Sakurajima volcano, Japan in the sequence of its eruptive activity	EPS	58	595-600		4(5)			火山噴火の様式と火山灰中に含まれる揮発性成分量との関係を桜島火山において検討し、ストロンボリ式噴火に比べてそれに続くプルカノ式噴火では降灰中の揮発性成分量が明らかに減少していることを示した。この結果から、脱ガスが進行するのはストロンボリ式噴火後のドーム形成期であり、ドーム下に蓄積されたガスがプルカノ式噴火の原動力であることを明らかにした。
Nurhasan, Ogawa, Y., Ujihara, N., Tank, S. B., Honkura, Y., Onizawa, S. Mori, T., and Makino, M.	2006	Two electrical conductors beneath Kusatsu-Shirane volcano, Japan, imaged by audiomagnetotellurics and their implications for hydrothermal system	EPS		in press		4(5)			草津白根火山におけるAMT観測の結果、二つの低比抵抗層が解析された。一つは東斜面の地表下200mに位置し厚さは約1kmである。これは抗井データの粘土鉱物を含む層に対応し、不透水層をなすことでその上方の熱水のフロアとなる。また深部熱水のキャップになっていると考えられる。もう一つは、山頂部の西側の深部1~2kmに存在し、地震発生域下限より深部に位置し、地殻変動源がその端に存在することから流体である可能性がある。
Ohwada, M., Ohba, T., Hirabayashi, J., Nogami, K., Nakamura, K. and Nagao, K.	2003	Interaction between magmatic fluid and meteoric water, inferred from 18O/16O ratios of fumarolic gases at the Kusatsu Shirane volcano, Japan	EPS	55	105-110		4(5)	2		草津白根山ではマグマから上昇した火山ガスが地下水と接触して流体滞留層を形成し、ここで一段目の気液分離が起こること、気相は上昇過程で更に地下水と接触し、二段目の気液分離を経て噴気ガスとして地表から放出される。一段目の液相は山麓から温泉として湧出することなどを火山ガスの化学組成及び希ガスを含む同位体組成から明らかにした。
Saito, G., Kazahaya, K., Shinohara, H.	2003	Volatile evolution of Satsuma-Iwojima volcano: Degassing process and mafic-felsic magma interaction	MELT INCLUSIONS IN VOLCANIC SYSTEMS: METHODS, APPLICATIONS AND PROBLEMS (B. De Vivo & R. J. Bodnar, Edts). Series: Developments in Volcanology. Elsevier, Amsterdam.	5	129-146		4(5)	2(2)	2(3)	
Saito, G., Stimac, J., Kawanabe, Y., Goff, F.	2002	Mafic-felsic magma interaction in rhyolites from Satsuma-Iwojima volcano, Japan: evidence from mafic inclusions.	Earth, Planet. Space	54	303-325		4(5)	2(2)	2(3)	
Sawa, T., Ohba, T. and Hirabayashi, J.	2006	The hydrothermal system beneath Owakudani on Hakone volcano, Japan; Traced by stable isotopic ratios of H2O	J. Nuclear Sci. Tech.	43	468-473		4(5)			水蒸気爆発は熱水リザーバの爆発であり、熱水リザーバの気相部分は噴気として地表に現れる。箱根山大涌谷噴気地帯において噴気を採取し、化学組成及び安定同位体比を測定した。その結果、天水起源の地下水がマグマの熱により蒸発し噴気の大部分を構成していることが判明した。大涌谷では有史の噴火は無く、マグマの熱が効率よく地下水に移行しているとする観測結果と整合的である。
Shimoike, Y., K. Kazahaya and H. Shinohara	2002	Soil gas emission of volcanic CO2 at Satsuma-Iwojima volcano, Japan	Earth, Planet. Space	54	239-248		4(5)	2(2)		
Shinohara, H., Kazahaya, K., Saito, G., Matsushima, N., Kawanabe, Y.	2002	Degassing activity from Iwodake rhyolitic cone, Satsuma-Iwojima volcano, Japan: Formation of a new degassing vent, 1990-1999	Earth, Planet. Space	54	175-185		4(5)	2(1)	2(2)	
上野寛、森博一、碓井勇二、宮村淳一、吉川一光、浜田信生	2002	広域の地震観測網で捕らえた平成12年(2000年)有珠山噴火開始前後の地震活動	火山	47	689-694		4(5)	1(1)		
岡崎紀俊、高橋浩晃、笠原稔、石丸聡、森清、北川真之、藤原健治、中禮正明	2002	高密度GPS観測による2000年有珠山噴火の地殻変動	火山	47	547-558		4(5)	2(4)		
舟崎淳、内藤宏人、菅野智之、宮下誠、近澤心、上田義浩、飯島聖	2006	2004年の浅間山噴火前の地震活動と噴火前に観測された傾斜変動	火山	51	125-133		4(5)			(特定火山「浅間山」の補足)
伊藤弘志・大谷康夫・小野智三・大島治・成田学・山野寛之・佐藤勝彦・渡邊健志・小河原秀水	2003	鳥島火山2002年噴火の経緯	火山	48	235-239		4(5)			伊豆鳥島の2002年の噴火を航空機から観測した様子を詳細に解説し、火口の状況や噴火のメカニズムについて論じた報告。
古川邦之・齋藤武士・鎌田浩毅・檀原徹・味喜大介・石原和弘	2003	沖小島ボーリングコア試料の岩相記載とFt年代 - 始良カルデラ南縁における先カルデラ活動史 -	火山	48	491-497		4(5)	2(3)		
高木朗充、西村裕一、宮村淳一	2002	セオドライト観測による2000年有珠山噴火後の地殻変動	火山	47	559-569		4(5)	2(4)		
山里平、宮村淳一、森博一、碓井勇二、佐久間貴代志、渡辺精久、佐藤十一、高橋裕二、坂井孝行	2002	空振データから見た2000年有珠山の噴火活動	火山	47	255-262		4(5)	2(4)		

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
杉本 健・石橋秀巳・松島 健	2005	伊豆鳥島火山の岩石学的研究	火山	50	87-101		4(5)	2(3)		
斉藤英二・井口正人	2006	口永良部島火山におけるGPS連続観測による気象要素を加味した3次元変位検出	火山	51	21-30		4(5)			
筒井智樹, 須藤靖明, 森健彦, 勝俣啓, 田中聡, 及川純, 戸松稔貴, 松尾のり道, 松島健, 宮町宏樹, 西潔, 藤原善明, 平原秀行	2003	阿蘇山中央火口丘山体の3次元地震波速度構造	火山	48	293-307		4(5)			
藤原健治, 田中圭介, 北川貞之, 湯山弘明, 松島功, 内田直邦, 中禮正明, 徳永規一, 増成友宏	2002	有珠山周辺に展開した準リアルタイム GPS観測システムについて	火山	47	547-559		4(5)	2(4)		
綿貫陽子・鎌田浩毅・味喜大介・石原和弘	2003	桜島火山大正噴火における二次溶岩流の分布と流出時期	火山	48	513-518		4(5)	2(3)		
木股文昭・森清・山本圭吾	2002	RTKGPSによる有珠山地殻変動リアルタイムモニター(2000年4月15-30日)	火山	47	167-170		4(5)			2000年有珠火山噴火時に実施したRTKGPSによる地殻変動モニターの分解能を議論し、火山活動に伴う地殻変動のモニターにRTKGPSが有効なことを明確にする。
野上健治・平林順一・大場 武・安孫子勤・岡田 弘・西村裕一・前川徳光・鈴木敦生	2002	有珠山2000年噴火における地球化学的研究 火山灰付着水溶性成分の変動と火山活動	火山	47	325-332		4(5)	2		
	2002	Satuma-Iwojima: Continuous degassing of a rhyolitic volcano	Earth, Planet. Space	54	175-347		4(5)	2(1)	2(2)	活発に噴煙活動を継続し、1990年代後半に山頂に新たな火孔を形成した、薩摩硫黄島に関する、論文集。火山ガス、地震、地質、電磁気、衛星リモセン、岩石学、同位体地球化学など多分野の最新の研究成果をまとめており、継続的な脱ガス活動及びそれに伴う噴火過程の研究の基礎となる特集号。
Kriswati, E. and Iguchi, M	2003	Inflation of the Aira Caldera prior to the 1999 Eruptive Activity at Sakurajima Volcano Detected by GPS Network in South Kyushu	Ann. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.,	46B	817-826		4(5)	2(3)		
Maryanto, S., Iguchi, M. and Tameguri, T.	2005	Spatio-temporal characteristics on spectra and particle motion of harmonic tremors at Sakurajima volcano	Ann. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.,	48B	329-339		4(5)			
気象庁	2003	平成12年(2000年)有珠山噴火調査報告	気象庁技術報告	124	247		4(5)	1(1)		
気象庁	2006	平成12年(2000年)三宅島噴火及び新島・神津島近海の地震活動調査報告	気象庁技術報告	128	293		4(5)			(特定火山「三宅島」の補足)
松尾美明・田賀傑	2004	「たざり」と浅海用マルチビーム測深機	海洋情報部技報	22	73-77		4(5)			若尊カルデラにおける「たざり」と呼ばれるガスの湧出を浅海用測深機で調査し、潜水調査以外の湧出位置を特定する方法でその分布状況を確認した報告。
安井真也・高橋正樹・石原和弘・味喜大介	2006	桜島火山大正噴火の記録	日本大学文学部自然科学研究所研究紀要	41	75-107		4(5)	2(3)		
為栗健・Sukir Maryanto・井口正人	2005	桜島火山におけるハーモニック微動のモーメントテンソル解	京都大学防災研究所年報	48B	323-328		4(5)			
宇都浩三・味喜大介・Hoang NGUYEN・周藤正史・福島大輔・石原和弘	2005	桜島火山マグマ化学組成の時間変化	京都大学防災研究所年報	48B	341-347		4(5)	2(3)	3(3)	桜島火山の噴出物の全岩化学分析及び同位体分析を行い、最近約2千年間の噴出物はそれ以前の噴出物と有意に異なる化学組成を有すること、時間とともにマグマの化学組成が緩やかに変化することなどがわかった。このことは桜島火山の誕生以降、始良カルデラ直下の地殻起源マグマにマントル起源マグマが徐々に注入された結果と考えられ、最近4千年間はマントル起源マグマの割合が徐々に増大していると推定される。
須藤靖明, 他89名	2003	阿蘇火山における人工地震探査 - 観測および初動の読みとり -	地震研究所彙報	77	303-336		4(5)			
杉本 健・松島 健	2005	伊豆鳥島火山の噴気活動	九州大学大学院理学研究院研究報告(地球惑星科学)	22	23-27		4(5)	1(2)		
大谷康夫・笹原昇・矢吹哲一朗・服部敏一・宮崎進・及川光弘・野上健治	2006	2005年「福徳岡ノ場」の海底火山噴火	海洋情報部研究報告	42	31-38		4(5)			福徳岡ノ場の海底噴火の発見から終息までの状況を時系列に解説し、また、過去の他の火山の活動例から同様な小規模な活動であることを報告。
片淵雄次・大場武・平林 順一・野上健治・大和田道子・水橋正英	2002	132. 草津白根山噴気孔ガスと低温ガス	月刊地球月刊地球総特集「活動的火山」		46-51		4(5)	2		
味喜大介・宇都浩三・周藤正史・石原和弘	2003	古地磁気と全岩化学組成からみた桜島火山観測井ボーリングコア中の溶岩の対比	京都大学防災研究所年報	46B	835-840		4(5)	2(3)	3(3)	
矢来博司, 村上 亮, 森 克浩, 宮本純一	2004	GPS繰り返し観測により捉えられた硫黄島の地殻変動	国土地理院時報	106	51-55		4(5)	2(2)	1(1)	
Aizawa, K.	2004	A large self-potential anomaly and its changes on the quiet Mt. Fuji, Japan.	Geophys. Res. Lett.	31	L05612, doi:10.1029/2004GL019462		5			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
Aizawa, K., Yoshimura, R., Oshiman, N.	2004	Splitting of the Philippine Sea Plate and a magma chamber beneath Mt. Fuji.	Geophys. Res. Lett.	31	L09603, doi:10.1029/2004GL019477		5			
Aizawa, K., Yoshimura, R., Oshiman, N., Yamazaki, K., Uto, T., Ogawa, Y., Tank, S.B., Kanda, W., Sakanaka, S., Furukawa, Y., Hashimoto, T., Uyeshima, M., Ogawa, Y., Shiozaki, I., Hurst, A.W.	2005	Hydrothermal system beneath Mt. Fuji volcano inferred from magnetotellurics and electric self-potential	Earth Planet. Sci. Lett.	235	343-355		5			
Nakamichi, H., Ukawa, M., Sakai, S.	2004	Precise hypocenter locations of midcrustal low-frequency earthquakes beneath Mt. Fuji, Japan	Earth Planets and Space	56	e37-e40		5			
Nakamichi, H., Watanabe, H., Ohminato, T., Seismic Observation Group of Mount Fuji.	submitted	Three-dimensional velocity structure of Mount Fuji and the South Fossa Magna, central Japan.	J. Geophys. Res.				5			
Notsu, K., Mori, T., Chanchan do Vale, S., Kagi, K. and Ito, T	2006	Monitoring of quiescent volcanoes by diffuse CO2 degassing: case study of Mt. Fuji, Japan,	Pure Appl. Geophys.	163	1-11		5	2(2)		
Togashi, S., Kita, N. T., Tomiya, A., Morishita, Y., and Imai, N.	2003	Melt Contribution to Partitioning of Trace Element between Trace Element and Basaltic Magma of Fuji Volcano, Japan	Applied Surface Science	203-204C	814-817		5			
Ukawa, M.	2005	Deep low-frequency earthquake swarm in the mid crust beneath Mount Fuji (Japan) in 2000 and 2001	Bulletin of Volcanology	68	47-56		5			
Yamamoto, T., Takada, A., Ishizuka, Y., Miyaji, N., Tajima, Y.	2005	Basaltic pyroclastic flows of Fuji volcano, Japan: characteristics of the deposits and their origin	Bull. Volcanol	67	622-633		5			
Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S.	2004	Multiple magma reservoirs for the 1707 eruption of Fuji volcano, Japan	Proc. Japan Acad. Ser. B	80	103-106		5			
宮地直道・富樫 茂子・千葉達朗	2004	富士火山東斜面で2900年前に発生した山体崩壊	火山	49	237-248		5			
安田 敦・金子隆之・吉本充宏・嶋野岳人・中田節也・藤井敏嗣	2004	溶岩流試料に基づくマグマの成因の検討	月刊地球	号外48	139-145		5			
鷗川元雄	2004	富士山の低周波地震	月刊地球	号外48	67-71		5			
気象研究所・防災科学技術研究所	2005	富士山の浅部地震活動 2002年～2004年 -	火山噴火予知連絡会会報	89	59-61		5			
気象庁	2003	火山噴火予知連絡会富士山ワーキンググループ報告書			48		5			
吉本充宏・金子隆之・嶋野岳人・安田敦・中田節也・藤井敏嗣	2004	掘削試料から見た富士山の火山形成史	月刊地球	号外48	89-94		5			
吉本充宏・金子隆之・藤井敏嗣・中田節也	2004	富士火山北東斜面の火砕流堆積物の特徴	月刊地球	号外48	124-130		5			
及川 純・鍵山恒臣・田中聡・宮町宏樹・筒井智樹・池田靖・湯山弘明・松尾のり道・西村裕一・山本圭吾・渡辺俊樹・大島弘光・山崎文人	2004	人工地震を用いた富士山における構造探査	月刊地球	号外48	23-26		5			
金子隆之・安田 敦・吉本充宏・藤井敏嗣・中田節也・嶋野岳人	2004	富士火山のマグマの特質とマグマ供給系：テフラ層の分析による検討	月刊地球	号外48	146-152		5			
金子隆之・吉本充宏・嶋野岳人・安田敦・藤井敏嗣・中田節也・上杉 陽	2004	富士山東斜面におけるテフラ層序：掘削の成果と活動史	月刊地球	号外48	101-107		5			
鍵山恒臣	2004	富士山の構造と火山活動 - 富士山研究がめざすもの	月刊地球	号外48	12-16		5			
鍵山恒臣・小河 勉・長田昇・小山悦郎・小山茂	2004	富士山山麓における熱・電磁気観測	月刊地球	号外48	35-41		5			
国土地理院地理調査部	2004	火山土地条件図「富士山」- 火山地形などの分布を多様な色で表現 -		143	4-7		5			
佐野貴司・大八木勝治・大石 梓・土隆一	2004	富士山西麓端の掘削より得られた火山岩の研究	月刊地球	号外48	95-100		5			
山元孝広, 高田亮, 石塚吉浩, 中野俊	2005	放射性炭素年代測定による富士火山噴出物の再編年	火山	50	53-70		5			

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
市川清次・佐藤宗一郎	2003	ハザードマップ基礎資料としての火山土地条件図「富士山」	測量	Vol. 53, No. 8	53-56		5			
相澤広記・吉村令慧・山崎健一・神田 径・大志万真人・橋本武志・HURST Tony・坂中伸也・古川勇也・小川康雄・TANK S.B.・上嶋 誠・小河 勉・小山 茂・鎌山恒臣・塩崎一郎・宇都智史・吉村光弘・吉本和範	2003	富士山地下の地殻深部比抵抗構造(序報)	京都大学防災研究所年報	46号B	729-737		5			
相澤広記・富士山比抵抗研究グループ	2004	富士山での電磁気観測	月刊地球	号外48	27-34		5			
村上 亮	2004	GPS連続観測による富士山周辺の地殻変動 - 測地的手法による富士山のマグマ蓄積過程の解明の試み -	月刊地球	号外48	48-55		5			
大久保修平・高木朗充・新谷昌人・松本滋夫・福井敬一・孫 文科	2004	富士山頂における絶対重力測定	月刊地球	号外48	56-61		5			
中塚 正・大熊茂雄	2005	スティンガー式ヘリコプター磁気探査システムの開発とその磁気センサーに対する機体磁気補償	物理探査	vol. 58, no. 5	印刷中		5			
中田節也・吉本充宏・金子隆之・嶋野岳人・藤井敏嗣	2004	富士山の火山体掘削の概要	月刊地球	号外48	82-88		5			
中道治久・鶴川元雄・酒井慎一	2004	富士山の深部低周波地震の精密震源決定	月刊地球	号外48	72-75		5			
中道治久・渡辺秀文・大湊隆雄・富士山稠密地震観測グループ	2004	富士山稠密地震観測による地震波速度構造探査	月刊地球	号外48	17-22		5			
中野俊, 石塚吉浩	2002	富士山火山地質図(CD-ROM)(津屋(1968)の数値地質図)					5			
渡辺秀文	2004	観測井を用いた3次元アレイ広帯域地殻活動観測システムの構築	月刊地球	号外48	76-80		5			
藤井敏嗣	2004	富士火山でなぜ玄武岩マグマが卓越するか	月刊地球	号外48	153-159		5			
藤井敏嗣・吉本充宏・安田 敦	2002	富士火山の次の噴火を考える - 宝永噴火の位置づけ -	月刊地球	24	617-621		5			
藤井敏嗣・金子隆之・吉本充宏・中田節也・渡辺秀文	2002	富士火山の科学掘削と噴火予知	月刊地球	24	660-664		5			
藤原健治, 高木朗充, 山本哲也, 福井敬一, 坂井孝行	2004	富士山の浅部地震活動	月刊地球	号外48	62-66		5			
藤原健治・高木朗充・鶴川元雄・酒井慎一	2002	富士山周辺の地震活動 - 1995 - 2001 -	月刊地球	号外39号	57-63		5			
飯田晃子・藤井敏嗣・安田 敦	2004	富士火山, 貞観噴火と宝永噴火: ガラス包有物からのアプローチ	月刊地球	号外48	131-138		5			
防災科学技術研究所	2002	富士山の低周波地震と傾斜変動(2001/5/1 - 2001/10/16)	火山噴火予知連絡会会報	80	28-31		5			
防災科学技術研究所	2002	富士山の低周波地震活動と傾斜変動(2001年10月 - 2002年1月)	火山噴火予知連絡会会報	81	24-26		5			
防災科学技術研究所	2003	富士山の低周波地震と傾斜変動(2002年5月 - 2002年10月)	火山噴火予知連絡会会報	83	35-36		5			
防災科学技術研究所	2003	富士山の低周波地震活動と傾斜変動(2002年10月 - 2003年1月)	火山噴火予知連絡会会報	84	13-14		5			
防災科学技術研究所	2004	火山専用空中赤外線装置による富士山東北東山麓の表面温度観測結果	火山噴火予知連絡会会報	86	45-46		5			
防災科学技術研究所	2005	富士山の地震活動・地殻変動	火山噴火予知連絡会会報	90	54-58		5			
野津憲治・森 俊哉・鍵 裕之・伊藤貴盛	2004	富士火山における火山ガス拡散放出の調査研究	月刊地球	号外48	42-47		5			

「関連の深い項目」欄については、当該論文が下記に記載する建議等の項目のうち、関連が深い項目を示したものである。

1. 火山観測研究の強化

- (1) 火山活動を把握するための観測の強化
- (2) 実験観測の推進

4. 特定火山の評価

- (1) 浅間山
- (2) 三宅島

著者名	発表年	題名	雑誌名	巻	ページまたはDOI	査読の有無	最も関連の深い項目	2番目に関連の深い項目	3番目に関連の深い項目	関係各機関が推薦する主要な論文にかかる概要
2. 火山噴火予知高度化のための基礎研究の推進		(1) 噴火の発生機構の解明 (2) マグマ供給系の構造と時間的変化の把握 (3) 火山活動の長期予測と噴火ポテンシャルの評価 (4) 火山観測・解析技術の開発 (5) 国際共同研究・国際協力の推進	(3) 阿蘇山 (4) 桜島 (5) その他の火山							
3. 火山噴火予知体制の整備		(1) 火山噴火予知体制の機能強化 (2) 火山活動に関する情報の向上と普及 (3) 基礎データの蓄積と活用 (4) 地震予知観測研究等との連携強化	5. 「当面の富士山の観測研究の強化について（報告）平成13年6月」の評価							